

令和6年度

ヨコハマ市民まち普請事業

1次コンテスト



整備提案集

日時：令和6年7月21日(日) 10:15~17:30
会場：横浜市役所アトリウム



YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」からライブ配信

視聴は
こちらから



事務局 横浜市都市整備局 地域まちづくり課
横浜市住宅供給公社
認定 NPO 法人 市民セクターよこはま

■目次■

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは	1
2. ヨコハマ市民まち普請事業部会委員名簿、委員紹介	2
3. まちづくりコーディネーター紹介	7
4. 令和6年度のスケジュール	10
5. 令和6年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト	
(1) 1次コンテストプログラム	11
(2) 1次コンテスト審査基準	12
(3) 1次コンテストの投票方法・選考方法	12
6. 1次コンテスト提案一覧	13
(1) 熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会	14
(2) あおぞら広場をつくる会	20
(3) 二つ台みーとみーとPJ	26
(4) 100 段階プロジェクト	32
(5) 弘明寺 チームNECTA COLLECT	38
(6) いちょう坂商店街カフェ	43
(7) 子どもと大人のまなびば そらいろ	48
(8) マークスプリングス自治会	54

(9) 師岡熊野神社「いの池」愛護会58
(10) 鶴ヶ峰地域 café チーム64
(11) パレット境木ベース運営委員会69
(12) 『あつまれ！なみき』ワーキンググループ75
(13) 生麦事件参考館リユースプロジェクト81
(14) 「アスレの森」を残す会「あすのこ」86

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。令和5年度から「子育てプラス」として、次世代を共に育む地域づくりの推進のため、選考件数や支援体制を拡充しています！

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることにつながっていきます。

「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

<支援内容>

● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 活動助成金の対象は、提案をブラッシュアップすることを目的にした活動です。
- 対象経費は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）など技術面での協力者への謝金や用紙等事務用品費、印刷費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

2. 審査員名簿

(ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	すぎさき かずひさ 杉崎 和久	法政大学法学部教授 (都市計画、まちづくり)
審査員 (部会委員)	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動センター専門員 (市民活動支援、みどり環境)
	うえまつ まみこ 植松 満美子	松ヶ丘自治会会長 (まちづくり、市民活動)
	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
	ごとう ちかこ 後藤 智香子	東京都市大学環境学部准教授 (まちづくり、住環境、こども環境)
	とりうみ ちえこ 鳥海 知恵子	市民委員 (公募)
	ひご きみこ 肥後 貴美子	市民委員 (公募)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所理事長 (市民協働、環境社会学)

(五十音順、敬称略)



●杉崎 和久 (すぎさき かずひさ)
法政大学法学部／大学院公共政策研究科教授

東京理科大学理工学部建築学科、同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。(財)練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、(財)京都市景観・まちづくりセンターまちづくりコーディネーターを経て、現職。

学生のときから、商店街のまちづくりのお手伝いをしたり、まちづくりNPOに参加していました。このときには、まち普請事業と同じような公募型助成金の申請書を書くこともありました(勝率低かったですが)。

大学院を出てからは、東京都練馬区や京都市でまちづくり活動を応援する仕事をし、その中で公募型助成金の事務局として、制度設計や運営、応募される団体からの相談を受けていました。

現在でも、まち普請事業をはじめとして、市民のみなさんの思いが形になっていく、その過程でご縁が広がっていく取組に関心を持ち、お手伝いをしています。



●朝比奈 ゆり (あさひな ゆり)
東京ボランティア・市民活動センター専門員

私のまちづくりとの関わりは公園づくりからです。地域の方が自分の居場所と思えるような公園をつくろうと設計者として計画段階から地域の人たちと一緒に考えたり、手作り工事に汗を流す機会を大事にしてきました。その経験から、地域に住んでいるからこそその問題意識や夢を持った

人たちがまちづくりに参加することの可能性を実感し、その後は世田谷区のまちづくりセンター(当時)職員として地域のみなさんの活動を応援し、地域の様々な人をつないでまちづくりを推進する仕事に携わりました。現在は千葉外房の里山でのんびり?と暮らしています。東京ボランティア・市民活動センター専門員のほか、武蔵野美術大学通信教育課程社会形成デザイン講師を務めています。



●植松 満美子（うえまつ まみこ）
松ヶ丘自治会会長

青少年指導員、主任児童委員を務め、子ども達や学校、子育て支援などに関わる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い丘陵地。国道1号線から一步入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。そこで自治会では、いっとき避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成25年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。現在、松ヶ丘自治会会長を務める傍ら、地区連合自治会、地域防災拠点の運営委員会とも連携しながら、住み心地のよい地域づくりに普請しています。

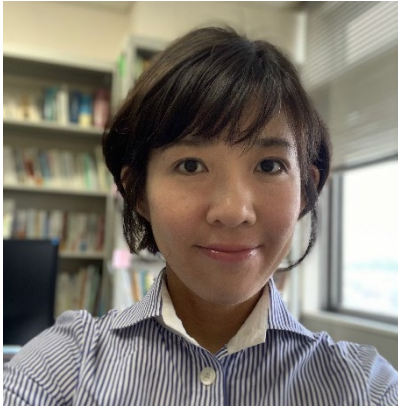


●川原 晋（かわはら すすむ）
東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員（横浜・人・まち・デザイン賞）、地元小学校のPTA会長などを経験。趣味はガーデニング。



●後藤 智香子 (ごとう ちかこ)
東京都市大学環境学部環境創生学科
都市環境分野准教授

東京理科大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンターディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教、同大学先端科学技術研究センター特任講師などを経て2023年より現職。

学生時代から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究してきました。具体的には、世田谷区の地域共生のいえづくり支援事業制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営に10年以上携わっています。また最近は、こども環境についても都市計画・まちづくりの観点から研究を進めており、特に保育園（こども施設）と地域との空間的・社会的な関わりについて研究しています。



●鳥海 知恵子 (とりうみ ちえこ)
市民委員

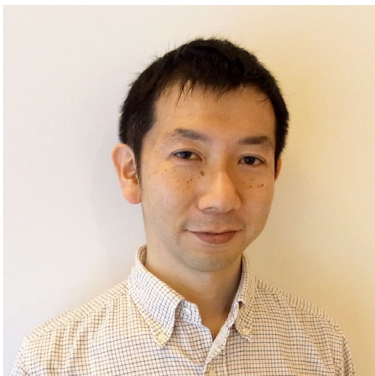
住み開き家庭で育つ。東日本大震災時、子育て中に出逢った仲間と「大人と子どもと一緒に考える・心をつなぐ・みみをすます」小さな会を立ち上げたことが地域活動の原点です。保育士として子育て支援に携わりながら、住み開きで親子の居場所作りをしようと転居した日野南地区で、子どもと大人が混ざり合って遊び始めるうちに、緩やかな地縁や仲間が必要なのは乳幼児親子だけではないことに気づきました。令和元年、地域で出逢った様々な同志と「誰もひとりぼっちにしない街」を目指し、まち普請にチャレンジ。整備対象となり2020年「コミュニティカフェ icocca」をオープン。誰もが安心して暮らせる、一緒に育ちあえる仲間のいる街を目指しています。現在、NPO法人 icocca ひのみなみ副理事を務めており、高齢化率44%超の街で様々な人を巻き込みながら楽しく活動中。モットーは「ないなら創ろう・ないから創ろう」



●肥後 貴美子 (ひご きみこ)
市民委員

武蔵野美術大学卒、グラフィックデザイナー。30歳を目前に「エコツーリズム」と出会ったことから、環境に携わる分野に進進。日本各地・フィジー諸島でのエコツーリズム開発やビジターセンター等の展示施設に関わりながら、自然やその土地の文化、そこに生きる人の魅力を伝えることに努めています。

東日本大震災後、自ら住む地域について何も知らないことを猛省し、地域でのエネルギーやコミュニティを考え、実践する市民活動を開始しました。コミュニティ農園での循環型農業や養蜂などを通じて、環境に負荷をかけずに豊かに暮らすヒントを模索しています。今ある地域の環境を次世代にどう残していけるか、仲間と一緒に考え、行動しています。



●松村 正治 (まつむら まさはる)
NPO 法人よこはま里山研究所理事長

1999年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005年から現在までNPO法人よこはま里山研究所(NORA)理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。ほかに、NPO法人Life Lab Tama事務局長、NPO法人森づくりフォーラム理事など。


NPOでの市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会、横浜市市民協働推進委員会なども務めてきました。


一方、2020年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は4つの大学の兼任講師、市民向け環境講座のコーディネーターを務めています。

3. まちづくりコーディネーター紹介

ヨコハマ市民まち普請事業では、提案の検討段階から、まちづくりの専門家「まちづくりコーディネーター」による伴走支援を行っています。まち普請事業の提案をブラッシュアップしていくためには、このコーディネーターはなくてはならない存在です。

今年度、支援に入ってくださっているまちづくりコーディネーターを紹介します。(来年度提案グループ等への支援も含む)

	<p>●大木 淳 (おおき じゅん)</p> <p><u>これまでの伴走支援実績 (まち普請)</u></p> <p>町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト (港北区)</p> <p>Co-coya 復活プロジェクト実行委員会 (緑区)</p> <p>おはなしの風 (泉区) ほか</p> <p><u>得意とする分野</u></p> <p>地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等) 防犯 水・緑・環境 歴史・文化・アート 空き家・空き地の利活用 商店街活性化 狭あい道路整備 共同建替 コミュニティの再生 地域の活動拠点運営 地域交通サポート事業</p>
<p>コーディネーターから、提案グループへひとこと</p> <p>みなさんの発想や熱意が地域を動かす、まちづくりのダイナミズムをいつも体験させてもらっています。</p>	

	<p>●櫻井 淳 (さくらい じゅん)</p> <p><u>これまでの伴走支援実績 (まち普請)</u></p> <p>おもいやり隊 (南区)</p> <p>みんなが繋がる憩の家 icocca 作り隊 (港南区)</p> <p>まちとも 霧が丘 (緑区) ほか</p> <p><u>得意とする分野</u></p> <p>地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等) 水・緑・環境 歴史・文化・アート 空き家・空き地の利活用 商店街活性化 耐震改修 コミュニティの再生 地域の活動拠点運営 地域交通サポート事業 芸術不動産</p>
<p>コーディネーターから、提案グループへひとこと</p> <p>地域の課題解決をする場合、だれひとり取り残さないことが重要です。地域の意見を取り入れながら頑張ってください。</p>	



●鈴木 健夫 (すずき たけお)

これまでの伴走支援実績 (まち普請)

えだきん×夢叶きゃらばん (都筑区) ほか

得意とする分野

地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等) 水・緑・環境

歴史・文化・アート コミュニティの再生

地域の活動拠点運営

コーディネーターから、提案グループへひとこと
ぜひ夢のある企画を期待しています。



●田邊 寛子 (たなべ ひろこ)

これまでの伴走支援実績 (まち普請・プラン)

美晴台の道に愛称をつける会 (港南区)

都筑ふれあいの丘まちづくりプラン (都筑区)

高島中央公園ガーデニングクラブ (西区)

得意とする分野

地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等)

歴史・文化・アート 空き家・空き地の利活用 商店街活性化

コミュニティの再生 地域の活動拠点運営

コーディネーターから、提案グループへひとこと

「個性」を活かす視点や自己実現×貢献=ひとり一人の幸せであり、それが積み重なることがまちづくりというビジョンに共感しています。がんばって！



●治田 友香 (はるた ゆか)

これまでの専門分野に関する支援実績

クラウドファンディングによる資金的支援

商店街コンサルティング

得意とする分野

地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等)

空き家・空き地の利活用 商店街活性化

コミュニティの再生 地域の活動拠点運営、

NPO・ソーシャルビジネスの伴走支援、クラウドファンディング

コーディネーターから、提案グループへひとこと

このアイデアが地域ならではの居場所と出番づくりのきっかけになることを期待しています。



●藤井 祥子 (ふじい しょうこ)

これまでの伴走支援実績 (まち普請)

美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ (青葉区)

得意とする分野

コミュニティの再生

コーディネーターから、提案グループへひとこと

もともと「普請」には道路工事も含むそうです。皆さんの力で現代版「道普請」の実現を！



●山路 清貴 (やまじ きよたか)

これまでの伴走支援実績 (まち普請)

まちまど・洋光台シェアベース実行委員会 (磯子区)

HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会 (中区) ほか

得意とする分野

地域福祉 (高齢者・障がい者・子育て支援等) 防犯 水・緑・環境

歴史・文化・アート 空き家・空き地の利活用 商店街活性化

コミュニティの再生 地域の活動拠点運営 地域交通サポート事業

コーディネーターから、提案グループへひとこと

他にはない自分ならではの提案が出てくる事を期待しています。



●山本 耕平 (やまもと こうへい)

これまでの伴走支援実績 (まち普請)

弘明寺リビングラボ (南区) ほか

得意とする分野

水・緑・環境

コミュニティの再生

コーディネーターから、提案グループへひとこと

まち普請のエネルギーは必ず地域の幸せにつながります。

4. ヨコハマ市民まち普請事業 令和6年度スケジュール

整備提案の募集 R6年2月13日(火)～R6年5月31日(金)



1次コンテスト R6年7月21日(日)

本日!!



2次コンテスト対象提案の決定

現地見学会(令和5年度整備箇所) R6年8月28日(水)午後



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R6年9月22日(日)



2次コンテスト対象提案 現地視察 R6年10月31日(木)



2次コンテスト R7年1月26日(日)

整備対象提案の決定!

令和6年度 1次コンテストプログラム

☆ 10時15分～10時40分

- 開会
- 応援企業の紹介
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

☆ 10時40分～12時20分

- 整備提案の発表等（1グループあたり5分）

☆ 12時20分～13時00分

- 審査員による提案発表を踏まえたポイント整理

☆ 13時00分～13時50分

- 休憩

☆ 13時50分～17時10分（YouTube配信終了）

- まちづくりコーディネーターの紹介
- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

☆ 17時10分～17時30分

- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答
- 交流タイム

☆ 17時30分

- 閉会

※当日の進行状況により、変更する場合がありますのでご了承ください。

5. (2) 1次コンテスト審査基準

1 創意工夫

- ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ

2 意欲

- ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲
- ・整備の実現に向けて、住民参加や提案の精度を高める活動に取り組む意欲

3 公共性

- ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

5. (3) 1次コンテストの投票方法・選考方法

1 投票方法

提案ごとに「2票」「1票」「0票」の3段階で評価します。

2次コンテストの対象として「特に推薦する」	2票
2次コンテストの対象として「推薦する」	1票
「今後の取組に期待したい」	0票

2 選考方法

- ・ 過半数の審査員から得票したものを 2次コンテストの対象提案として選考します。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案が上位となります。

6. 令和6年度 1次提案一覧

発表順	区	提案グループ名	整備提案名	ページ
1	港北	熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会	熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト	15
2	金沢	あおぞら広場をつくる会	あおぞら広場	21
3	保土ヶ谷	二つ台みーとみーとPJ	シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備	27
4	青葉	100段階プロジェクト	みんなのほせんどう大作戦!	33
5	南	弘明寺 チームNECTA COLLECT	生き辛い世の中を生きる青少年のための居場所づくり	39
6	港南	いちょう坂商店街カフェ	集い・学び・楽しむ。カフェで助け合いの輪をつくる。	45
7	泉	子どもと大人のまなびば そらいろ	多様な人々が共食で繋がる探求と表現の「まなび」の場	51
8	瀬谷	マークスプリングス自治会	地域に住民の集えるキッチン付きサロンの開設	57
9	港北	師岡熊野神社「いの池」愛護会	いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持	61
10	旭	鶴ヶ峰地域caféチーム	子供と親を中心とした多世代が集える食堂&居場所	67
11	保土ヶ谷	パレット境木ベース運営委員会	懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点	73
12	金沢	『あつまれ! なみき』ワーキンググループ	あつまれ! なみきの・みんなで・きづくみらい!	79
13	鶴見	生麦事件参考館リユースプロジェクト	歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり	85
14	金沢	「アスレの森」を残す会「あすのこ」	あつまれ「アスレの森」	91

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	グリーン&クリーン大倉山 (G&C大倉山) 提案グループメンバーの大半が所属するG&C大倉山は2022年より、港北区役所前歩道花壇の整備と周辺街区のゴミ拾い(毎月第2日曜日)、鶴見川のゴミ拾い(不定期)、港北公会堂での映画「杜人」上映(2023年8月)等を実施。
提案場所	港北区樽町一丁目
提案名 (25字以内)	熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	樽町一丁目, 熊野市民の森に近接する戸建て住宅(提案メンバーが所有し居住)の1階と屋外空間を, 子どもと子育て世代を中心に地域の人達が集い, 農や自然の循環, 地域の風土と営みに触れて学び, 成長する, 地域に開いたコミュニティスペース(地域最小の公園)としたい。 上記のうち, 住宅内部は既に自費で改修に着手しており(リビングの土間化・サッシ交換・縁側の設置等で計1200万円, 6月末竣工予定), 本提案では下記のような, 屋外の工事を対象に申請したい。 ① 既存のコンクリートブロック塀・舗装タイルの撤去 ② 畑・花壇・雨庭の整備, コンポスの製作 ③ パーゴラとパーゴラの一部に草屋根・ソーラーパネルの設置 ④ 街灯・掲示板等の設置 整備費用の概算額: 約500万円
活用イメージ (提案する施設でどのようなことを行いますか)	パーゴラ下を屋内空間と一体的に使い, 子ども向けワークショップ, 子ども食堂, ギャラリー, コミュニティカフェ, 駄菓子屋, 子どもマルシェ, 木のおもちや屋, 子育て世帯での会合や対話の場としたい。畑・花壇エリアでは野菜・花卉の栽培, コンポストを活用した堆肥づくりと頒布を実施したい。 活動にあたり, 近隣にある寺社(メンバーの親族)やコミュニティスペースにも場所を借りて共同のイベントを実施し, この場所に留まらず, 様々な地域活動へと波及していくハブとなる場を目指す。
提案の背景(なぜ提案をするのか, 地域のニーズや課題, 生かしたい地域の魅力等に触れて説明してく)	師岡町・樽町地域は, 住宅地の中に, まだ農地や池が点在しており, 里山が「市民の森」として保全され, 師岡熊野神社や法華寺といった1300年続く寺社仏閣もある。一方で, ほとんど土地区画整理がなされていないエリアのため, 私道, 狭小道路, 土砂災害警戒区域, 坂や階段が多く, 未接道や建替不可の住宅も多い。区画整理を

ださい)	していないため公園が少なく、所在する公園も小規模なものが多い。また、大半が 第一種低層住居専用地域 の制限により、 商店等が無い 。これらの理由から、 子ども達が集まり、遊ぶ場所が非常に限られている 。さらに同地域の師岡小学校は、生徒数が増加傾向にあり、この問題は深刻化している。以上のように同地域は良い点・改善すべき点が混在した典型的なスプロール住宅エリアである。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	熊野の森や農地、寺社のように、師岡・樽町地域に残る豊かな自然や歴史的な資源が、地域の人々の自主的な活動により持続的に保全され、 子ども達が地域の環境に愛着を持ちながら、学び成長していくような地域 。そのきっかけとなるような場を作りたい。
整備時 の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	提案メンバーに建築・造園の専門家を含むため、設計費用・資材調達費用・活動費の低減を図る。近隣の法華寺の境内から竹などの資材を無償で調達できる。整備作業にはメンバー以外にも、メンバーの繋がりや近隣の住人や、メンバーが教員を務める大学の建築学科の学生の参加を見込む。
運営時 の協働（運営するときには連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	運営はG&C大倉山所属メンバーを中心に、近隣の住人や、メンバーが参加している地域団体の繋がり、師岡熊野神社や法華寺、町会等の地縁団体の繋がりや、興味関心のある人を巻き込んでいく。運営の費用は基本的に、提案場所の所有者であるメンバーが負担し、ワークショップなどのイベントは参加費・実費で運営する。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	本提案ではメンバーが所有する自宅の外構を改修し、屋内と合わせて様々な地域活動に対応した場とすることで、 より持続的な地域活動 が出来るよう目指している。 メンバーの大半は大倉山地域に住み、子育てを経験し、自然との自立的な関係構築の大切さを実感している。そのうえで、地域と自然環境を愛し、G&C大倉山以外にも様々な地域活動を実践しながら、地域をさらに良くしていこうと取り組んでいる。本提案の助成を得て、取組の実効性を高めていきたい。また、事業を進めていく中で、活動に加わる地域の人を増やしていきたい。 整備場所となる住宅は、前居住者が大切にしていたレモンの木が植わっている。2023年の冬に 家の前でレモンを頒布したことで、多くの方々にお声がけをいただいた 。こうした双方向のコミュニケーションを通じ、地域に愛される場所に育てていきたい。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいます。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5) への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物所有者	メンバー自身が所有

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ✓ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ✓ 記載内容に個人情報はありません。

位置図



住居表示：港北区樽町一丁目 敷地面積：約177㎡ / 建物面積：約175㎡

公園

農地

現況写真



対象敷地・建物の南面からの外観



整備場所となる屋外空間（現駐車場）

駐車場となっていたスペースには

カーポート屋根・電動ゲートがあったが

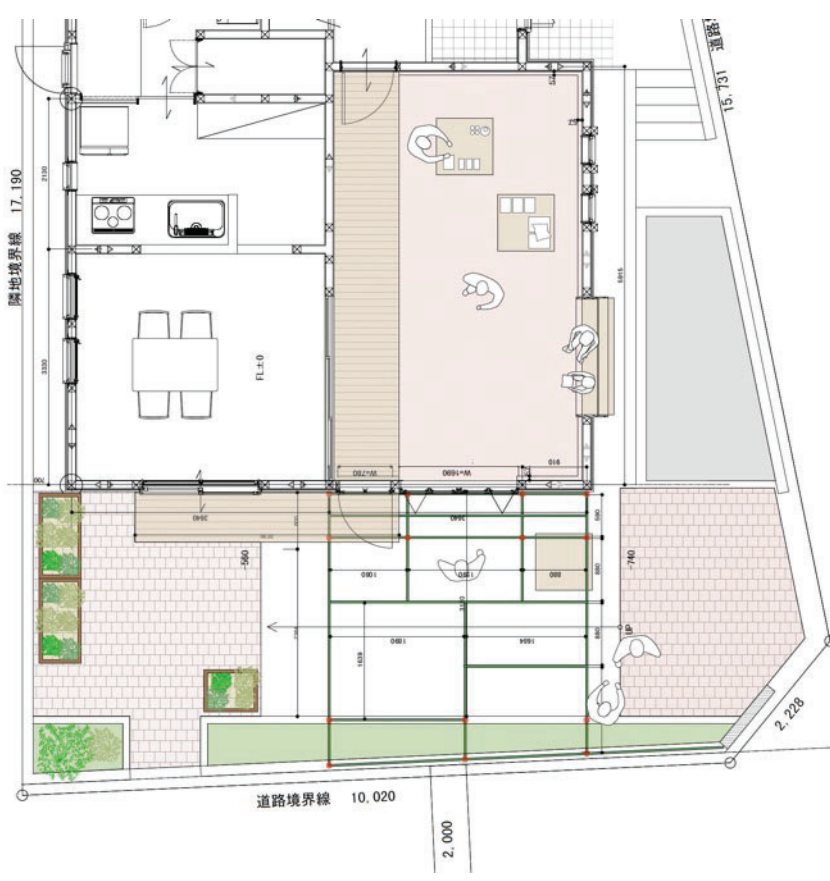
既に撤去工事を実施済み



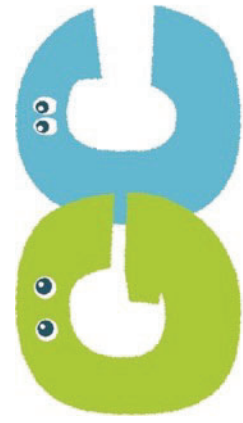
敷地内にレモンの木があり、2023年度の冬に
地域の人に150個近くを頒布

活用イメージ…屋内と一体的に使える空間整備

- 既存塀・舗装の撤去，パーゴラ・街路灯の設置等（パーゴラ上の一部に草屋根）



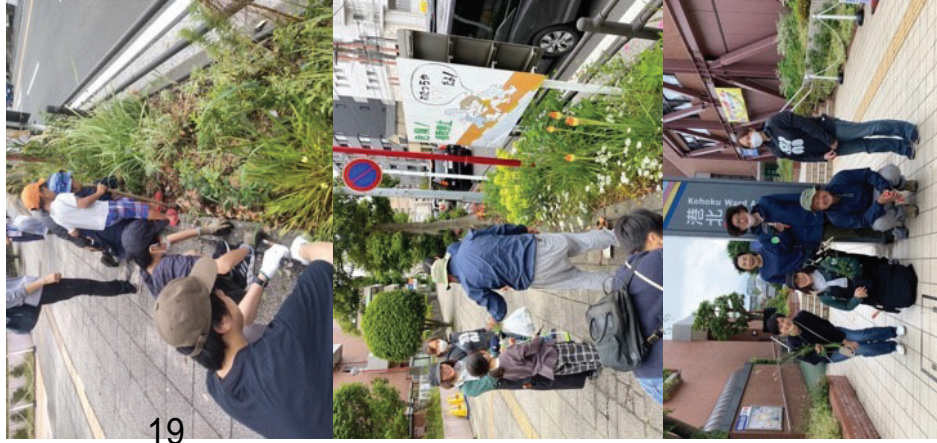
グリーン&クリーン大倉山活動実績（2022年～）



【主な活動】

- ・ 港北区役所歩道の植栽整備（毎月第2日曜）
- ・ 港北区役所周辺の清掃（毎月第2日曜）
- ・ 鶴見川河川敷の清掃（不定期）
- ・ 映画「杜人」上映&監督との対談会（2023年8月）
- ・ 秋のヨコアリくんまつり出展（2023年11月）
- ・ Instagramによる情報発信

**GREEN & CLEAN
OKURAYAMA**



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	あおぞら広場をつくる会
現在の主な活動 内容・活動実績	本提案の代表者が園長を務めるあおぞら谷津保育園では、「子育て支援と地域交流」を目指し、周辺地域の様々な団体や住民らと連携しながらよりよいまちづくりに向けた数多くの取り組みを行っています。例えば2012年より開始した「あおぞらふれあいまつり in 谷津」では園児の保護者や保育園スタッフだけでなく、町内会や地域住民らとの協働体制のもとでのイベントを毎年秋に開催しており、昨年度の第9回目は来場者が5000人を超える大盛況のうちに終わりました。10周年となる次回開催に向けても現在実行委員を立ち上げ、企画と準備を進めています。この他にも防犯・防災、子育て、健康・福祉といった様々な観点からより良い地域の実現を目指し、人々のつながりをつくる活動に精力的に取り組んでいます。
提案場所	金沢区谷津町
提案名 (25字以内)	あおぞら広場
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>上述の「あおぞらふれあいまつり in 谷津」は保育園関係者に限らず、地域の多くの方々が集い、互いにつながる貴重な機会となっておりますが、こうした人々の出会いが日常的に生まれるような場として「あおぞら広場」を提案します。具体的な整備提案の内容は以下の通りです。</p> <p>1) 誰もが立ち寄りやすい場をつくる「ふらっとパーゴラ」 日差しを遮るパーゴラを設け、ゆっくり佇める空間をつくります。遠くからも見えやすい特徴的なパーゴラの形が地域の目印にもなります。</p> <p>2) 利用者が自由にそこでの過ごし方を決められる「思い思いベンチ」 一人で時間を過ごしたり、複数人でおしゃべりをしたり、それぞれの使い方に応じて動かして座れる什器を設置します。</p> <p>3) 「おとなこどもパークカウンター」 保育園の塀の上に、敷地の内側からも外側からも利用できるカウンターを設けます。</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 1,500 万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>近隣にお住いの地域の方々や隣接する公園や近くに入口のあるハイキングコースの利用者等がお茶を飲んだり、軽食を食べたりしながらそれぞれの時間をゆっくりと過ごせる場所を目指します。また保育園のセキュリティとして区切るため、通常時は園内との行き来はできませんが、塀の境界線を越えて互いに見る・見られるの関係性をつくり、「あまり話したことはないけれども、よく見かけるよね。」というような“顔の見える関係性”が広がっていくことを目指します。</p> <p>「あおぞらふれあいまつり in 谷津」の他にも保育園が主催し、地域の方が訪れることのできるイベントが多く開催されており、そうした場面においても来場者の交流スペースとして活用されることを想定しています。</p>

提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	少子化で子どもと関わる機会が少なくなっている地域社会で、保育園という多くの子どもが日々の時間を過ごしている場所には大きなポテンシャルがあると考えています。子育てという営みをたくさんの人たち、様々な世代が混じり合っ、関わりあって進めていくこととして捉えることが、地域のつながりを生み出すきっかけとなることをこれまでの地域との連携活動の中で実感しています。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	“地域で子どもを育てる”という認識が地域で当たり前のものとなり、その一つの共通した目標に向けた日々の活動や行事等を通して普段触れる機会の少ない大人と子ども、そして大人同士が相互につながり合い、ゆるく広い“顔の見える”関係性が地域全体に広がる将来像を描いています。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	保育園の在園児や卒園児の保護者に建築の設計や施工に関わる専門家がおり、これまでも園舎のいくつかの整備に関わってもらっています。また近隣大学の建築・まちづくり系の学生が過去のふれあいまつりにも参加してくれており、そうしたネットワークを活かした整備体制が構築できると考えています。
運営時の協働（運営するときには連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	ふれあいまつりの実施においても、保育園スタッフはもちろんのこと、父母の会（保育園園児の保護者の会）や園の卒業生やその保護者、近隣にお住まいの地域住民の方々、近隣大学（関東学院大学、横浜市立大学）の学生等と一緒に準備をする体制やその習慣が定着しています。そうしたチーム体制をさらに拡張しながら継続的な運営に取り組みたいと考えています。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>1) つくるプロセスを皆でシェアするコ・デザインの実施 整備内容をどのようなものにするか、運営の方法はどういう体制で行うのか等、本申請に関わる検討事項はたくさんありますがそれらを極力チームのメンバーや関係者らと一緒に考え、作業を行うことで、つくるプロセスそのものを人々の繋がり機会として活用します。</p> <p>2) 災害時やイベント時等の非日常時の利活用 現在も「地域の窯」と名付けられたピザ窯が園庭に設置され、非常時の訓練を兼ねて毎年のイベント時に窯を使ってピザを一緒につくることが恒例になっていますが、そうした非日常時にも利活用できる場をつくりたいと考えています。</p> <p>3) 保育園との隣接関係を活かした柔軟な運営・管理体制 対象敷地は園庭と隣り合っており、園舎からも直接視認できる場所を想定しており、目の行き届いた柔軟な運営・管理が可能です。</p>

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

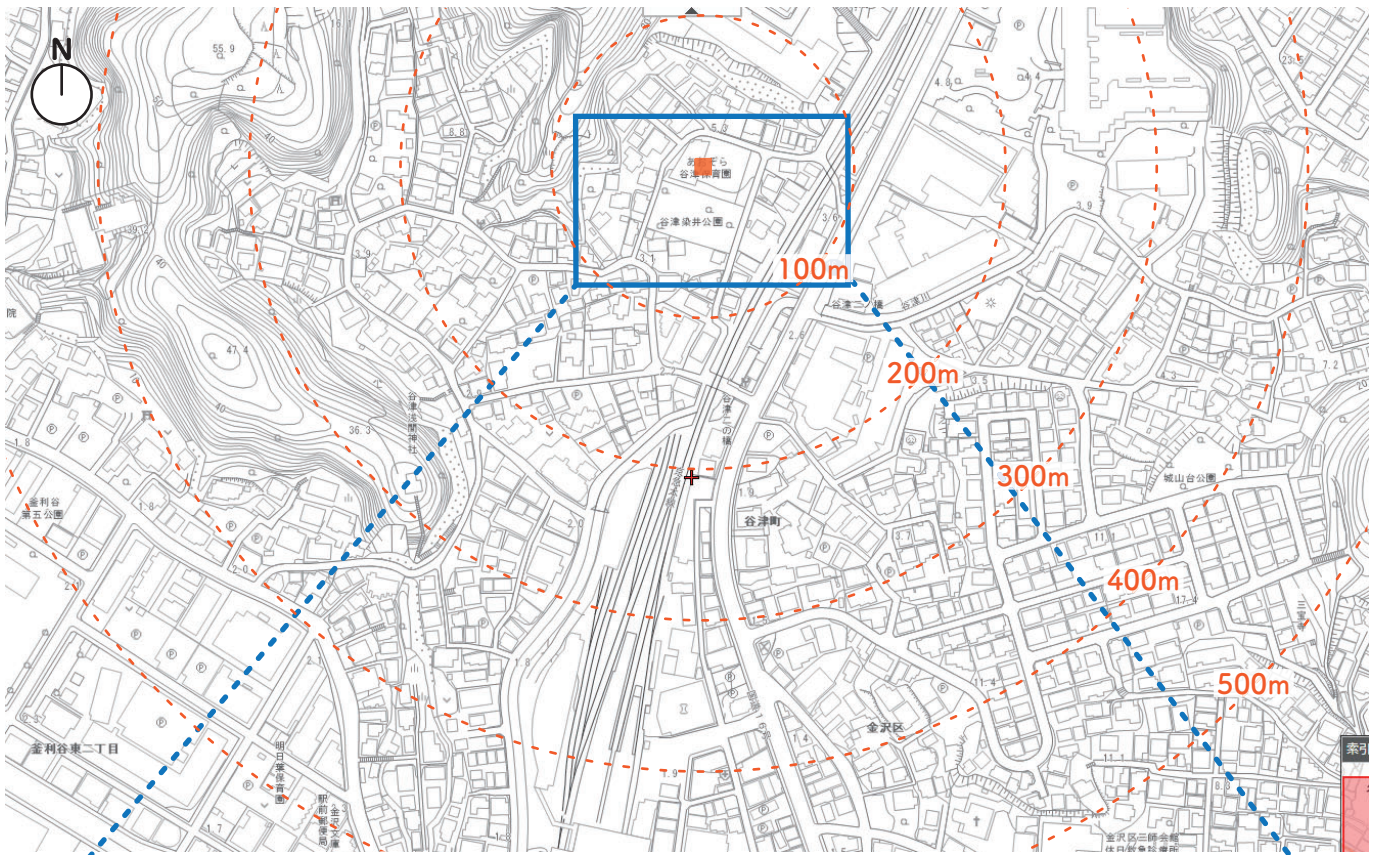
- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
こども青少年局 関係各課	応募することについて説明済。今後協議が必要。

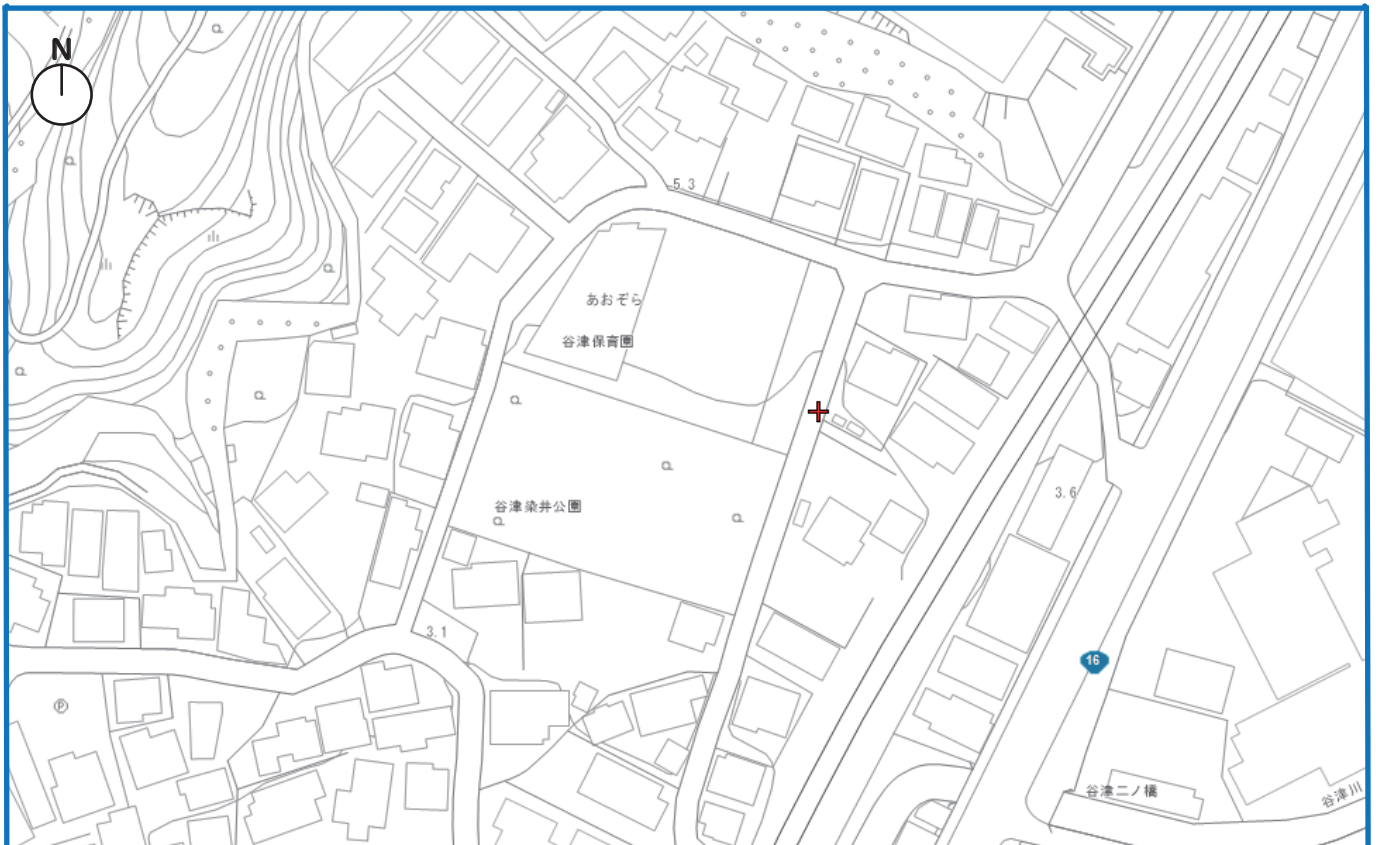
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



1/5000



住所：横浜市金沢区谷津町

1/1500



計画敷地



計画敷地を東側からみる



災害時地域の方も使える地域の窯（ピザ窯）



駐車場と園庭を遮る柵

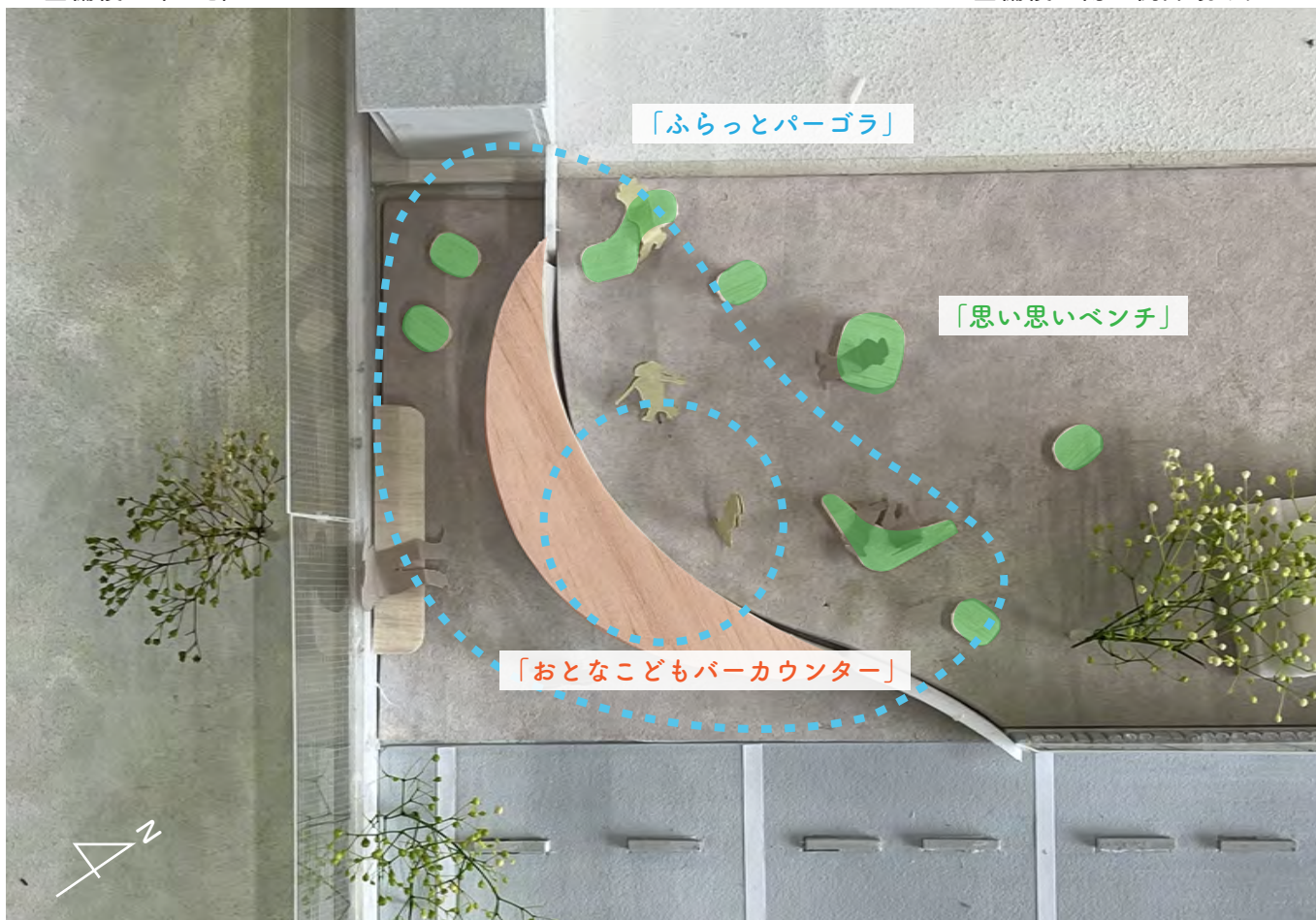


計画敷地から園庭をみる



▼ 整備後の平面計画図

▲ 整備後の南西側外観イメージ



□「あおぞらふれあいまつり in 谷津」



「あおぞらふれあいまつり in 谷津」当日の風景



ステージでの「まとい会」の演目



第8回4000人、第9回5000人の来場者



学童のこどもたちのエイサー



さんま無料配布等さまざまな地域団体との協働

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	二つ台みーとみーとPJ
現在の主な活動 内容・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人や学生による組織作り（現在45名ほど） ・学生中心で周辺敷地の模型を作成 ・羽沢横国まちづくり協議会への参加 ・常盤台ワークショップ（国大と地域で長年行われているWS）への参加 ・SNS（Instagram）での情報発信
提案場所	保土ヶ谷 区 釜台 町・丁目
提案名 (25字以内)	シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>横浜国立大学のすぐそばにあった精肉店を改修し、シェアキッチンを備えた多世代交流拠点と学習塾（まち普請整備対象外）を併設した地域拠点。昼は学習塾部分も地域拠点として開放する。</p> <p>学習塾は、①机とイスさえあれば運営できる。②子どもたちが学校に通う昼間は空間を持って余している。ということに着目し、学習塾×交流滞在空間×シェアキッチンで構成される交流拠点を整備し、地域へ開放する。</p> <p>同じ地域にいるのに接点の少ない①子どもたち②大学生③お年寄りをターゲットとして多世代交流拠点をつくるにあたり、人々の集いや交流のサポートインフラとして業務用のキッチンを導入する。地域住民のみならず事業者へも貸出を行い、世代交代問題でさびれつつある二つ台地域での開業に種をまく。</p> <p>日替わりでキッチンやホールの貸し出しを行うことで経済的側面からも交流拠点の維持運営をサポートする。</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500万円</p>
活用イメージ (提案する施設でどのようなことを行いますか)	<p>①みーとみーとカフェの運営 ②イベントの企画 ③場所貸し（キッチンなど）を通じて総合的に地域の拠点となることを目指す。</p> <p>① すぐ近くのバス停には屋根がないため、雨の日など、バスが来るまでおしゃべりしながら時間を潰す（この地域に足りない気軽に腰を下ろせる居場所）。</p> <p>② 月替わりでテーマ（食、パン、本、音楽、学びなど）を決めてイベントを開催。色々なコミュニティが気軽に立ち寄れる場となるようにする。</p> <p>③ こどもたち/大学生/お年寄りなどが身分や立場や性別を問わず集まり地域サロンを結成する（ex. 映画好きで鑑賞会、講師を招いて勉強会、お年寄りが子どもたちの宿題を教える、一緒に卓球をする。など）。</p> <p>③ 料理やお菓子作りが好きでいつかお店を持ちたい人（素人以上プロ未満）が試しにお店を開いてみる。日替わりで色々な店が展開し、地域に彩りが生まれる。</p> <p>①②③子育てに不安がある親御さんが気軽に集まれる場所やなくなってしまった「子ども会」の代わりになるようなイベントを企画したり、お年寄りが子どもたちの宿題を教えるような機会をつくる。</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課	横浜国大に近接したこの地域に学習塾を開設するにあたり、学習塾以外の時間は地域のために開放できないかと考えた。当該建物は、周辺住民や横浜国大の西門を利用する学生なら知らない人はいない地域のシンボリックな精肉店（ご主

題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	人の急逝により閉店) でありどのように利用されるかには高い期待が集まっている場所である。 地域の課題としては消えゆく地域の商店と、集まれる場所や居場所がないこと、横浜国大の学生と近隣住民の交流が希薄であることがあり、これらの課題を解決できないかという想いがある。
目指す地域の将来像 (提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか)	地域のだれもが知るこのまちのシンボリックな精肉店の跡地を、あたらしい地域拠点として再生することで、新たな交流や賑わい、繋がりを作っていきたいと考えています。 ここではキッチンを備えた交流拠点を整備することで、だれでも気軽に立ち寄れるような居場所をつくり、イベントやサロンの受け皿となることで、これまで希薄だった大学生と地域の交流や、子育て世代同士の連携、高齢者と子どもたちとの関わりを生み出します。
整備時の協働 (つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4) に触れて説明してください)	「ヒト」 地域ケアプラザ、横浜国立大学建築学科の学生、横浜国立大学で活動する様々な活動団体、自治会、羽沢横国まちづくり協議会を通じて多世代他分野の地域住人に周知し行うワークショップ形式での施工の実施。→自分たちが作った場所であるという経験から生まれる愛着や関心に期待。 「モノ」 大学の施設や既存の地域拠点等を活用しながら会議やワークショップを行う 「カネ」 クラウドファンディングによる資金調達を行いつつ、拠点の広報活動を行う。
運営時の協働 (運営するときには連携する仲間や活用する地域資源注4) に触れて説明してください)	「ヒト」 ・みーとみーとPJのメンバーによる地域交流企画や各種講座の実施。 ・常盤台社会福祉協議会との連携によるみーとみーとカフェ等の運営。 「モノ」 ・整備時に会った人脈を活用して、W.S. という形で少しずつ必要なものを整備する。(ベンチや本棚や二つ台商店街の案内ボードなど) 「カネ」 ・キッチンやホールの貸し出しによって得られた収益として運営。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	【学習塾 × 地域拠点のメリット】 ・通常の学習塾に通う中学生・高校生や現役世代の保護者たちは一般的に福祉拠点や地域との関わりが希薄になる傾向がある。一体の施設として整備することによって地域拠点単体では実現できない交流の発生が期待できる。 ・まちづくりのための拠点団体と学習塾の両軸での運営形態とすることで、開業や維持のハードルが下がる。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいる。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等注5) への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物所有者	応募することについて書面にて説明済み。今後協議を行うこととなっている。

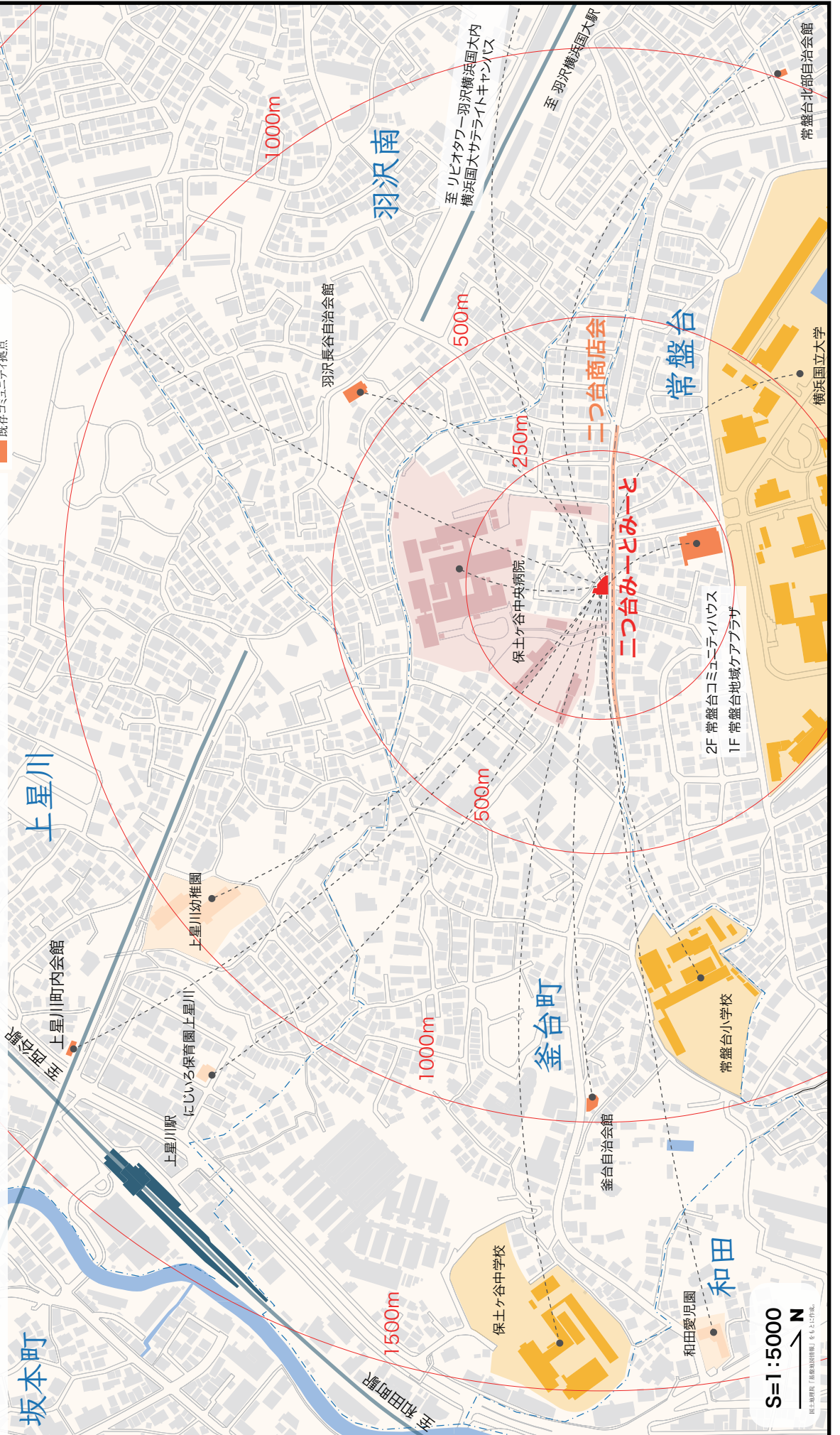
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

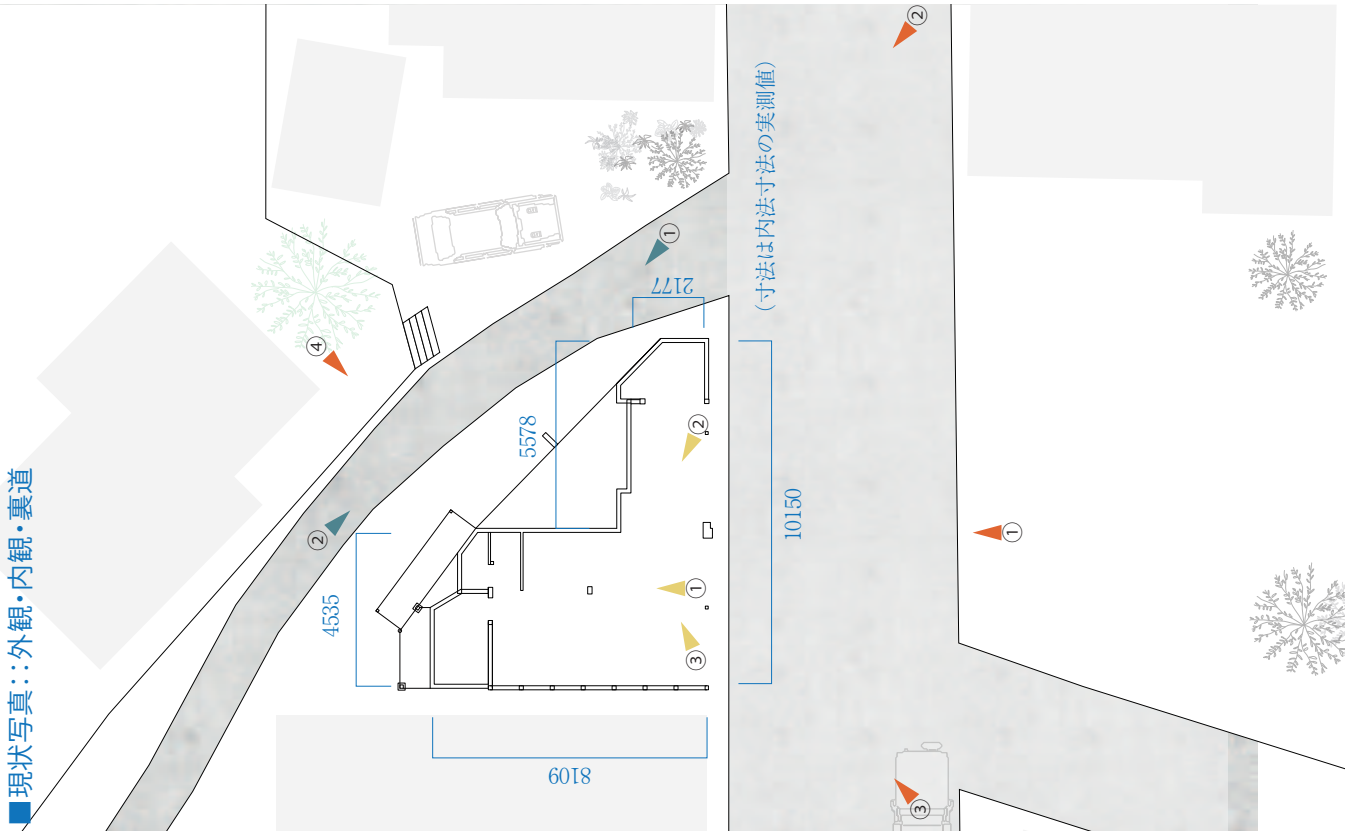
- ✓ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ✓ 記載内容に個人情報はありません。

■位置図：まちの拠点群を輝かせるハブとしての「二つ台みーとみーと」

みーとみーとPJIはまちの象徴的なランドマークであったお肉屋さん(meat)のあとを継ぎ、人と出会う(meet)場に改修するPJです。釜台・常盤台を総称した「二つ台地区」だけでなく、より広い範囲をネットワークでつなぎ、一つの地域としてとらえ直すきっかけを作ります。コミュニティ拠点では活動が行われているもの、拠点が閉じがちなものに対し、みーとみーとと二つ台はひらかれた構えでひとびとを迎え入れ、各拠点のサテライトとして、各コミュニティのハブとして、地域の活性化に貢献し、ここがまちの既存の拠点が輝き始めます。



■ 現状写真：外観・内観・裏道



建物



① 正面



② 側面1



③ 側面2



④ 裏面

裏道



① 大池道路より裏道を見る



② 裏道より大池道路をみる

内観



① 正面

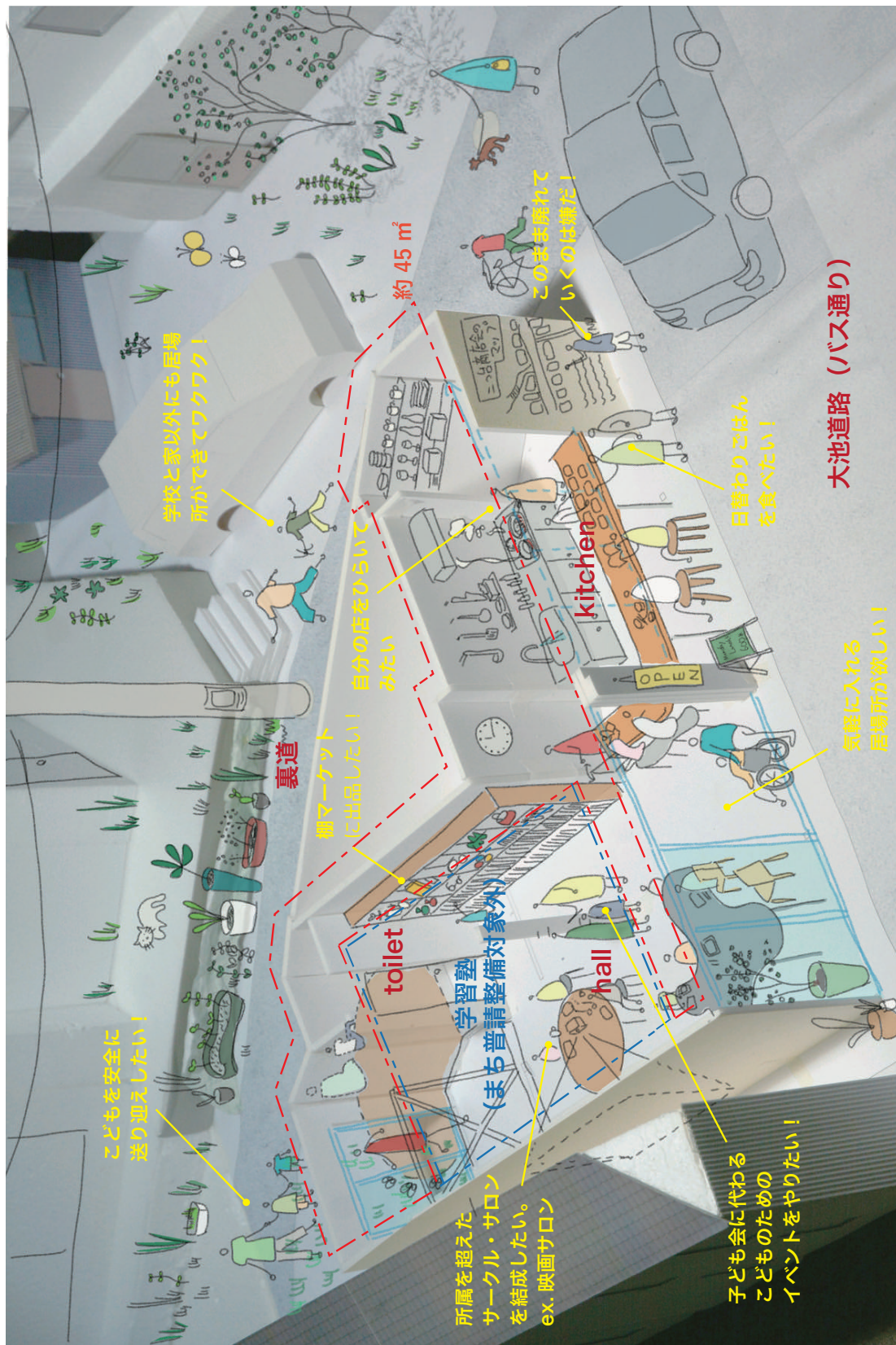


② 側面1



③ 側面

■ 活用イメージ図：人々の居場所となる「二つ台みーとみーと」



みーとみーと P1
主な整備内容

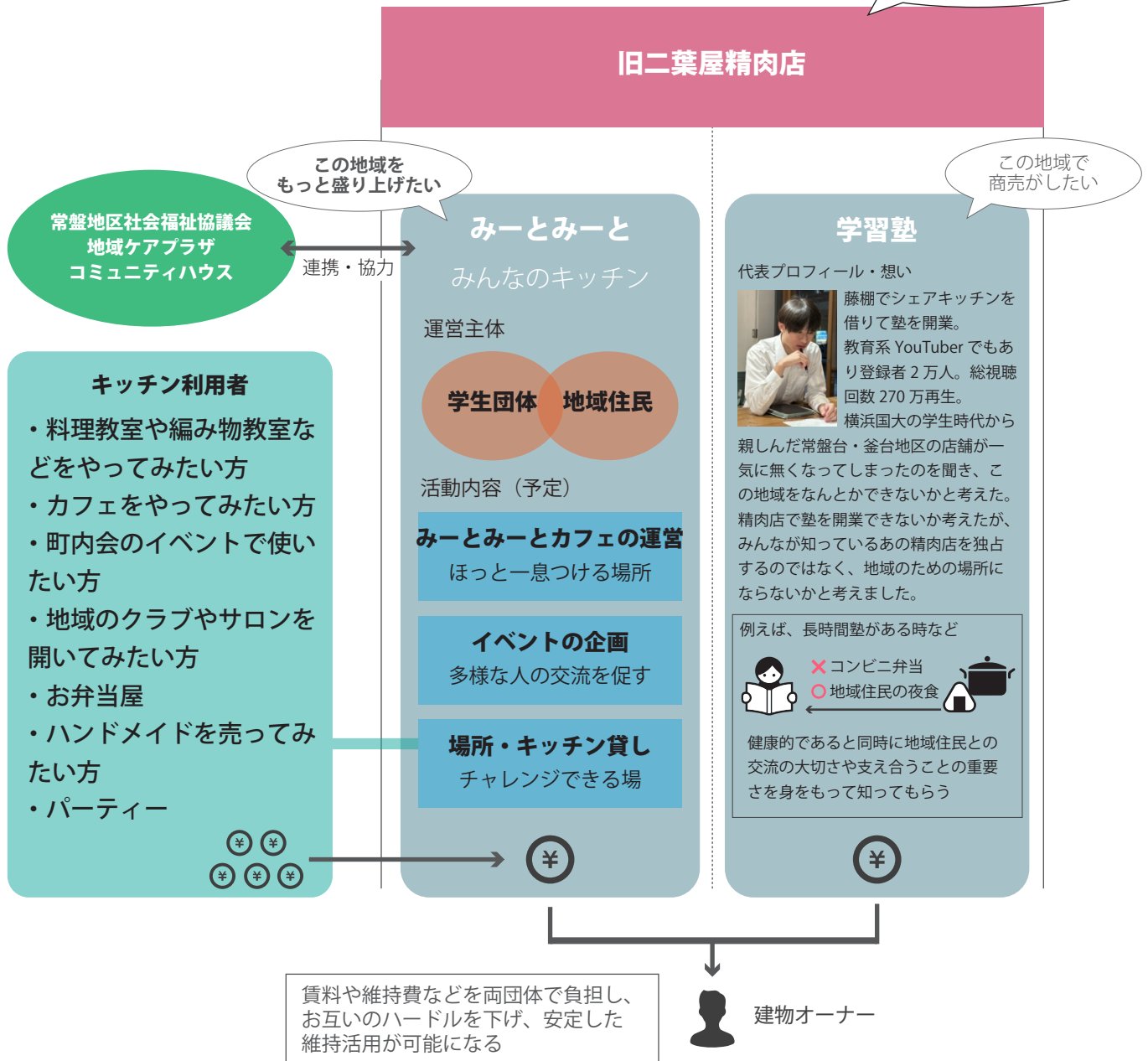
- ① 安全性確保や空間の快適性向上のため、裏道側に新たな開口部を設ける。
- ② 気軽に入れる雰囲気を生むため、大池道路側のファサードを改修する。
- ③ 小規模事業者に対しても機能する性能を持ったキッチンを整備する。
- ④ 裏通り側を少しずつ整備し、心地よい裏庭にする。

赤い線で囲んだ部分の投影部分を今回のまち普請整備事業による改修の対象予定範囲とする。

あのお肉屋さんをまちのキッチン・みんなの居場所にしよう！

二つ台みーとみーとPJ

まちのシンボル



活動記録

- 2023 二つ台のお店が軒並み閉店してしまったのを知る
- 2024/2 初期メンバーチーム結成
- 2024/2/24 旧二葉屋精肉店を実測。
- 2024/3/1 「羽沢横国まちづくり協議会」に参加
横浜市の職員さんに「まち普請」を紹介される
- 2024/3/10 メンバーでまち普請バスツアーに参加
- 2024/5/10 「羽沢横国まちづくり協議会」に参加
- 2024/5/11 模型を作る会を開催
多くの横浜国大生が参加。PJの周知
- 2024/5/25 常盤台ワークショップで「居場所」をテーマに議論
- 2024/5/26 常盤地区社会福祉協議会の総会に出席

今後の予定

- ・保土ヶ谷区社会福祉協議会を通じて、常盤台地区と和田釜台地区社会福祉協議会の合同意見交換会を開催予定
- ・この地域を盛り上げたいという同じ思いをもつ仲間集め（チラシを配る、町内会、社会福祉協議会、子育てサークル等の地域団体への声かけ）
- ・地域のニーズを把握するために釜台町や近隣の町内の方に向けてアンケートを行なう
- ・クラウドファンディングによる資金集めと活動の周知

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

- 注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
 注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	100段階プロジェクト
現在の主な活動 内容・活動実績	2017年以来、毎月集まって新たな事業を企画・実行している。100段階の維持管理だけでなく、歩道橋のカラーリング、たまプラ遺産タイルや大理石スツールの追加設置、まち歩きマップの制作(小学生とのコラボも数回)、まち歩きツアー、美しが丘小学校の卒業生を送る「花の100段階」、再度の階段カラーリング等の活動を継続してきた結果、Googleマップに名前が載るほど認知が高まった。派生して「トコロジスト養成講座」「街のはなし」「どこコレ? in たまプラザ」などの活動も展開している。
提案場所	青葉区 美しが丘 1～3丁目
提案名 (25字以内)	みんなのほせんどう大作戦！
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<ul style="list-style-type: none"> ◆美しが丘の地域資産である5kmに及ぶ歩専道ネットワークを、安心・安全+歩きたくなる・気分のアガるコモンスペースにする様々な仕掛けを整備する。子どもから高齢者までまちに出て楽しむ機会をすることで新たな交流や活動を創出し、まちづくりの発展に繋げていく。 ◆印刷平板タイル等を活用した歩専道ネットワーク環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①「世界の中心タイル」：新しいランドマークとして、かつて駅前にあった方位盤をバージョンアップして見晴らしのいい丘の上に再現する。 ②「距離、所要時間タイル」：美しが丘健康づくり歩行者ネットワークの誘導サインタイルに情報を追加する。 ③「ちょこっと体操支援NFCタグ」：既存の健康遊具等の情報看板に使い方・歩き方のyoutube動画等へのリンク情報を貼付する。 ④「道草情報アート」：防犯灯の鋼管ポールへの情報シール貼付、歩専道沿いの民地擁壁への掲示板アート等により歩いて楽しめる仕掛けをつくる。 ⑤「注意喚起タイル」：歩専道入口箇所への設置。自転車・電動キックボード通行禁止/階段から車道への飛び出し抑制、歩専道ネットワークの安全性向上を図る。 整備費用の概算額：約 500 万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<ul style="list-style-type: none"> ◆新しいランドマーク：皆に愛される名前をついた場所として、子どもたちの記憶に残り、「まちの横の広がり」を体感できる新たな都市伝説をつくる。クリスマス時期には世界の中心タイル周辺の100段階にLEDキャンドルを並べ、ア・カペラの光の100段階イベントを恒例行事にする。(①②④) ◆100段階サーキットトレーニング：安全に歩けるようになった歩専道、階段、公園の健康遊具を組み合わせ健康づくりのワークショップなどでアクティビティを行う。外歩きのTipsや体力づくりの紹介記事も記載したコースマップを作成し、歩いてまちを感じる体験に繋げる(③、その他資料) ◆安全・注意喚起：SNSやお披露目イベント・WSなどで継続的にPRする(⑤)
提案の背景(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	<p>美しが丘には、1960年代の開発当時から「住環境はデベロッパーや行政に与えられるだけのモノではなく、住民が自分のスキルや時間をまちづくり活動に提供することを積み重ねて守り育て続けるモノ」という文化があり、このまちづくりスピリットを永く継承していきたい。</p> <p>◆その先のまちづくり活動へ： まちづくり活動継続のためには担い手の育成が不可欠。地域内外を問わず「たまプラ好き・推し」で集まったアーティストや専門家を含むメンバーで新たな活動をやり遂げることは次へのモチベーションとなる。また、100段階のカラーリングから6年が経過し、整備前を知る子どもたちがすべて卒</p>

	<p>業した今が新たな記憶に残る活動を実施する時期である。</p> <p>◆健康で元気（活動的）なまちと人の形成・維持： 美しが丘は開発当初から歩車分離で安心して歩ける「歩くための街」として計画されており、半世紀以上前からWalkable Cityを標榜してきたことは誇るべきこと。また、建物でなくオープンな歩専用道は、個人の健康増進のみならず人の交流が生まれるコモンスペースとなり、そこから様々な地域の活動が派生し、コミュニティの活性化に繋がっている。</p> <p>◆安心・安全な歩専用道ネットワークへ： 地域外部からの通勤・通園時に高速で走り抜ける自転車車両の危険性は長年住民を悩ませている問題である。今後増えるかもしれない電動キックボードも高齢者や小さい子どもにとっては脅威である。まち普請に取り組むことで地域情報紙や新聞に取り上げられ、歩専用道の主役が歩行者であることが広範囲に周知徹底できることへの期待もある。</p>
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<p>◆まちづくり活動が終わらないまち 新たなランドマークづくりや地域発のイベント等を通じて、いつも誰かが何らかのまちづくり活動をしている地域であり続けたい。</p> <p>◆場所や身体感覚と結びついた経験が愛着を生む住み続けたいまち 歩専用道ネットワークの環境整備により、美しが丘ならではの記憶に残る場所や体験を通じて地域への愛着を育みたい。</p>
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<ul style="list-style-type: none"> ・美しが丘中部自治会アセス委員会：歩専用道ネットワークを含む地区計画区域内の住環境維持活動を実施中、在住の建築・まちづくり専門家がいます。 ・デザイナー・建築家：タイルデザインや公共施設設計協力が得られる ・美しが丘連合自治会：美しが丘公園へのサーキットトレーニング情報設置などについては、美しが丘地区全体の自治会と情報共有する。 ・2017年度ヨコハマ市民まち普請で採用し、美観や耐久性など整備効果が実証済みのスワントイル製品を安価に手配できる建築家の協力を予定。 ・広く参加を募り「世界の中心タイル」設置のワークショップを行う。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<ul style="list-style-type: none"> ・美しが丘中部自治会館：毎月の定例会議、ワークショップの場所を提供 ・美しが丘連合自治会：まち歩きやワークショップ開催時に広報など協力 ・たまプラーザ地域ケアプラザ：地域交流コーディネーターがおり、イベント等行う際の広報への協力 ・美しが丘小学校学校・地域コーディネーター：児童・保護者への広報 ・ワークショップの指導者：協力をあおげる人材が地域内外に多数いる（体操指導者・声楽家・デザイナーなど） ・地域情報発信媒体：ロコっち よきかな SNS広報に協力
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが日々あたりまえに享受し消費しているこの住環境は、多くの先人たちの努力が積み重なった過去からのギフト。「世界の中心タイル」は、積み重なった過去のレイヤーの上に自分が立っている「今、ここ」から未来を、広い世界を想う象徴となり、子ども達にまちづくりの記憶が残る。 ・歩専用道には、自転車走らなくなり→安全になり→人が安心して出歩ける→利用者が増える→まちを体感して愛着が深まる、という良い循環が生まれることを期待している。 ・まちづくり活動は永遠の未完成。これまでまちの物語を積み重ね続けてきたことで、関わるメンバーの新陳代謝も起き、活動が進化し続けてきた。今後もさらに人々の記憶にすり込み続け、伝え続け、シビックプライドを喚起するために、新たな「！」を創りたい。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいる。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等注5) への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
青葉土木事務所	提案することについて了解を得た。設置位置や仕様などは今後あらためて協議を行う。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

■ 整備場所現況写真 2024年5月

① 世界の中心タイル・④ 道草情報アート
設置予定地



② 健康づくり歩行者NW誘導サイン
距離・所要時間タイル設置予定地



③ 健康遊具情報看板
NFCタグシール貼付予定地



⑤ 歩行者専用道路
車両乗り入れ禁止注意喚起タイル

車止めにインクジェットでプリントし
パウチした手作り標識が貼られている



⑤ 100段階段と車道が交差する地点
飛び出し抑制注意喚起タイル設置予定



■活用イメージ

① 世界の中心タイル



前回まち普請事業で出会ったタイルの活用を想定。整備後も色あせず良好な状態を維持している。平板タイルサイズでも自由なデザインが焼き付けできる。

整備後に周囲をきれいに維持する意識が働くことは前回事業で実感している。



- かつて駅前にあった世界のまちへの距離を示す方位盤。それを見晴らしの良い通学路の丘にバージョンアップして再現し、100段階段で水平方向の広がりを感じる場所とする。
- この方位盤に「どこコレ」イベントで「世界の中心タイル」と名付けたのは子どもたち。
- 登下校で毎日通るたびに世界とのつながりに気づく感覚が身に付く。子どもたちの記憶に残るような名前の付いたランドマークがあることでシビックプライドの形成にもつながる。登校できない子も校門まで行けるようになる前にここまでは来られるかも。

② 距離・所要時間タイル



地域のマイルストーン。まちの広がりを感じ、散歩、サーキットトレーニングなどのアクティビティをもっと楽しめる。



ABC公園まで

〇〇分

徒歩〇〇分

④ 道草情報アート



鋼管ポールを利用して床面のタイルだけを見るのではなく視線が上を向く仕掛けを考える。心が解放される。

⑤ 注意喚起タイル (例)



左右確認

車両が乗り入れない歩専道で安心してまち歩き、遊びを楽しむ。

■その他資料

100段階サーキットトレーニングとは

趣旨

美しが丘地区の階段や坂道と随所に設置された健康器具を使用してのサーキットトレーニングの効果的な行い方を専門家の協力を得て考案。広く周知しイベントやワークショップなどを行い、住民の健康維持に役立ててもらおう。

トレーニングにおいては地域に点在するさまざまなポイントをマイルストーンとして用意。身体活動を通して地域の歴史やありようを知り、まちを自分事として意識し地域と繋がる。

段階的な筋トレプログラム編成

プログラム1. 買い物途中で筋トレを行う → 日常生活に無理なく運動を組み込む → まずここから

プログラム2. 散歩しながら体操と軽い筋トレを行う → 日常生活に加えて軽い運動を行う

プログラム3. ランニングしながら筋トレを行う → 積極的に体力強化運動を行う

健康遊具使い方 チャレンジ運動の提示

→ YouTube動画、ポッドキャスト

紙媒体のコースマップへの落とし込み

- ・体操指導、ストレッチ、筋トレ指導のワークショップを開催
美しが丘公園健康遊具/「ただザップ」を利用した軽い運動
- ・公園でお母さんが子どもを遊ばせている間に見る情報
カバ公園、第3公園、ABC公園の健康遊具で軽めの運動動画を撮影して既存の使い方表示板にQRコードまたはNFCタグを貼付 → 読み込むことでYouTube動画再生
- ・正しいウォーキング指導ワークショップ
遊歩道のタイル ハマトレ（ロコモ予防の運動）
音声録音 → ポッドキャストで聞きながら、指導者のいないときでもウォーキングが可能となる



100段階サーキットトレーニングでのストレッチ



ウォーキング指導



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	弘明寺 チームNECTA COLLECT
現在の主な活動 内容・活動実績	継続就労支援B型事業所ACEの運営
提案場所	南区 大岡・2丁目
提案名 (25字以内)	生き辛い世の中を生きる青少年のための居場所づくり
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	放課後居場所スペース 菓子、スイーツ製造機の設備 <u>整備費用の概算額：約500万円</u>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	就労支援施設の使用外の時間帯（平日17時以降及び土日）を開放し、近隣にお住いの引きこもりなど課題を抱える青少年の居場所として開放する。 菓子やスイーツの製造体験を通じて、様々な課題を抱える青少年の将来的な就業や自立を目的とする。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	施設予定地の近隣にある横浜総合高校では様々な課題により生き辛さを抱えている生徒が多く存在している。 これからの時代を担うであろう若い世代を地域全体で支えていくという課題が弘明寺という地域には存在している。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	活気ある若者が増えることで町全体が活性化し、障がいの有無や老若男女問わず地域の住民が生き生きと暮らせる弘明寺の街を創造する。

<p>整備時の協働 (つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>就労支援継続B型事業所「ACE」に通う利用者のみなさん 横浜総合高校在校生、卒業生のみなさん 近隣住民の皆さま の協力を仰ぎ、搬入作業や収納棚など自前で製作が可能なものは出来るだけ手作りで行う。</p>
<p>運営時の協働 (運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>横浜総合高校卒業生、在校生のみなさん。 近隣住民のみなさん。 弘明寺商店街、商連神奈川 神奈川県中小企業家同友会 の皆様との協力のもと、弘明寺地域での食を通じた活動を行ってまいります。 仕入れや販売も出来るだけ近隣で行ってまいります。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>今回のご提案の特徴は、弘明寺地区にある横浜総合高校の先輩が後輩を支援していくところにあります。 支援を受けた生徒が先輩となり、またその後輩を支援するという持続可能な計画であり、地域の人々はその活動を支えるというところで関わっていくこととなります。 未来を担っていく人材が元気よく過ごしていくことが、必ず弘明寺の街を豊かにしていくと確信しています。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいます。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物所有者	提案内容、コンテスト応募に関して説明し承諾を得ました

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません

位置図 出典：Google map

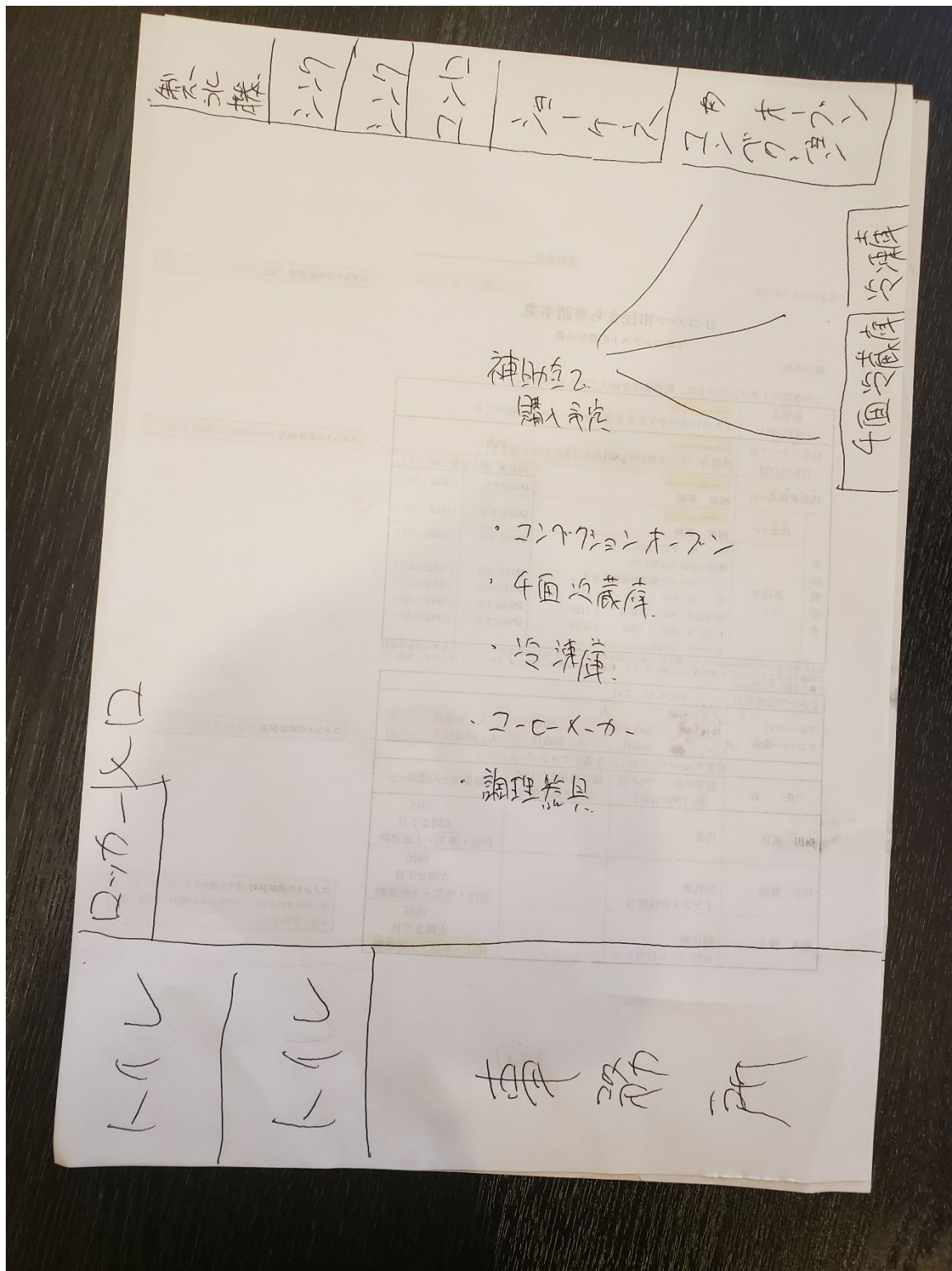
提案場所：南区大岡2丁目



現況写真



活用イメージ図



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	いちょう坂商店街カフェ
現在の主な活動 内容・活動実績	商店街として、自治会と一緒にホコテンイベント・ハロウィンイベント・イルミネーションなどを実施し、多くの来場者がある。今年は新たに七夕縁日ややきそば大会も実施。
提案場所	港南区 丸山台 3丁目
提案名 (25字以内)	集い・学び・楽しむ。カフェで助け合いの輪をつくる。
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>商店街にある空き店舗を活用し、多世代が気軽に立ち寄れるコミュニティカフェを整備します。</p> <p><多世代が利用しやすい居場所を作ります> 授乳やおむつ替えが出来るスペース、飲食できる場所の確保、展示用の棚（壁に飾り棚など）、軽食提供ができるキッチン、壁紙や床の貼り替え、トイレの新設等を行います。</p> <p><出入口を整備します> 道路から玄関までに段差があるため、スロープを設置します。また、商店街が坂になっている為坂の途中の休憩場所にもできるようベンチも設置します。</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500 万円</p>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<ul style="list-style-type: none"> ・週3～4回カフェを開き、おにぎりなど軽食を提供します。カフェの開店日以外はレンタルスペースやチャレンジスペース（子供の職場体験）として貸し出していきます。 ・小さなことでも相談できるような場所にしていきます。カフェには自治会や商店街など地域に詳しい人がいられるようにし、行政などからのお知らせなど情報発信の中心となっていきます。 ・子育て世代に向けて、お母さん同士の憩いの場になるようお話し会を企画していきます。 ・シニア世代の健康づくりのお手伝いとして地域内で開業している内科医の協力も頂き、健康相談などを行っていきます。その他、商店街の人が自分達の技術をレクチャーできるワークショップを実施します。 ・宮城県大崎市のお米や季節の野菜や果物などを常時販売します。港南区と交流のある大崎市と地域単位でも交流を深めていきます。 <p>一人暮らしの高齢者などコミュニティに参加しづらいと思っていた方が気軽に立ち寄れるような、行きやすく、話しやすい居場所作りを目指します。</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・今、丸山台には気軽に集える場所がなく、多世代に向けて情報発信ができるカフェ運営を目指そうと思いました。空き店舗が増えることは大変寂しいことでもあり、今回店舗オーナーのご理解も頂けたことから一歩踏み出してみようと思いました。 ・高齢化が進み、助け合いを希望する人が増える一方、支える側の担い手が不足しています。若い世代に関心を持って頂き、将来の担い手となって頂けるよう、カフェを通じて交流をしていきたいと思ひます。

	<p>・自治会のまちづくりガイドラインの運用で安心・安全で緑豊かな住環境は維持されています。しかしコロナ禍以降、人と人との交流が改めて大事であると感じており、多世代が集える居場所を作っていきたいと思いました。</p>
<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>希薄になりつつある、人と人との繋がりを戻し、困った時に気軽に相談ができ、一人で悩まず地域みんなで解決策を考えていける場所を作りたいと思います。</p> <p>丸山台は、市営地下鉄の駅があり、駅前にはショッピングセンター、商店街、医療施設も充実している地域です。地域内には小学校や中学校、少年野球場や複数の公園もあり、大変環境に恵まれた地域であります。また丸山台いちょう坂商店街はチェーン店ではない、個人経営のお店が多いのが特徴です。ただ現在は地域の方々と商店の人との関わりはさほど多くはなく、カフェを通じて身近な存在として頼って頂きたいと思います。その結果「人にやさしく、住みやすい」と感じて頂ける地域にしていきたいと思います。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>商店街には金物店や建設会社、リフォームショップもあり、また地域住民の中には元大工さんもおおり、ボランティアとしてご協力も頂きながら、出来る範囲で整備や棚づくりなどを行い、経費節減に努めます。</p> <p>また、改修資金もまち普請事業だけでなく、自治会や商店街からの支援もお願いしていきます。</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>日々の運営には発起人であるメンバーの他にPTAのママさんにも協力して頂きます。広報活動には自治会にも協力を頂き、回覧や掲示をしていきます。</p> <p>7月に開所する上永谷駅前地域ケアプラザにも情報発信のお手伝いをお願いしていく予定です。そして今後の運営を長期的に維持していくためにも常時ボランティアを募り、仲間を増やしていきます。</p> <p>また商店街会員の協働でカフェ独自の商品を開発し、カフェでの販売やネット通販などで資金を集めるようにしていきます。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>いちょう坂商店街は100店舗以上の会員数であり、地元自治会も1900世帯の大きな自治会です。この二つが様々なイベントや地域内の課題について連携できているのが心強いと思います。また、最近、外国人の方も増えてきており、地域の人とのコミュニケーションを希望されているため、カフェを通じてお互いの文化を理解し、友好を深めていきたいと思います。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地建物所有者	まち普請コンテスト期間の説明や改修内容をご説明し、ご理解頂きました。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図

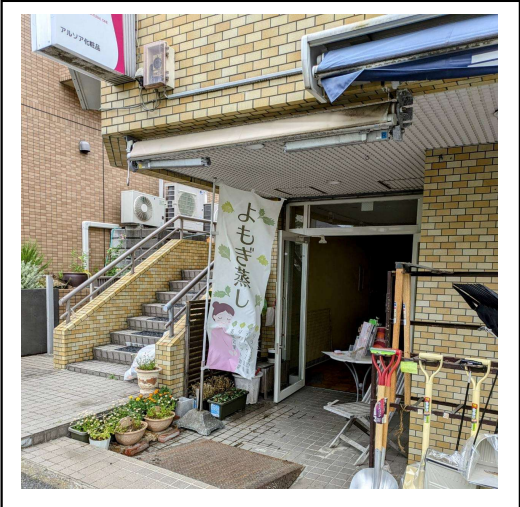


現況写真

内観



入口

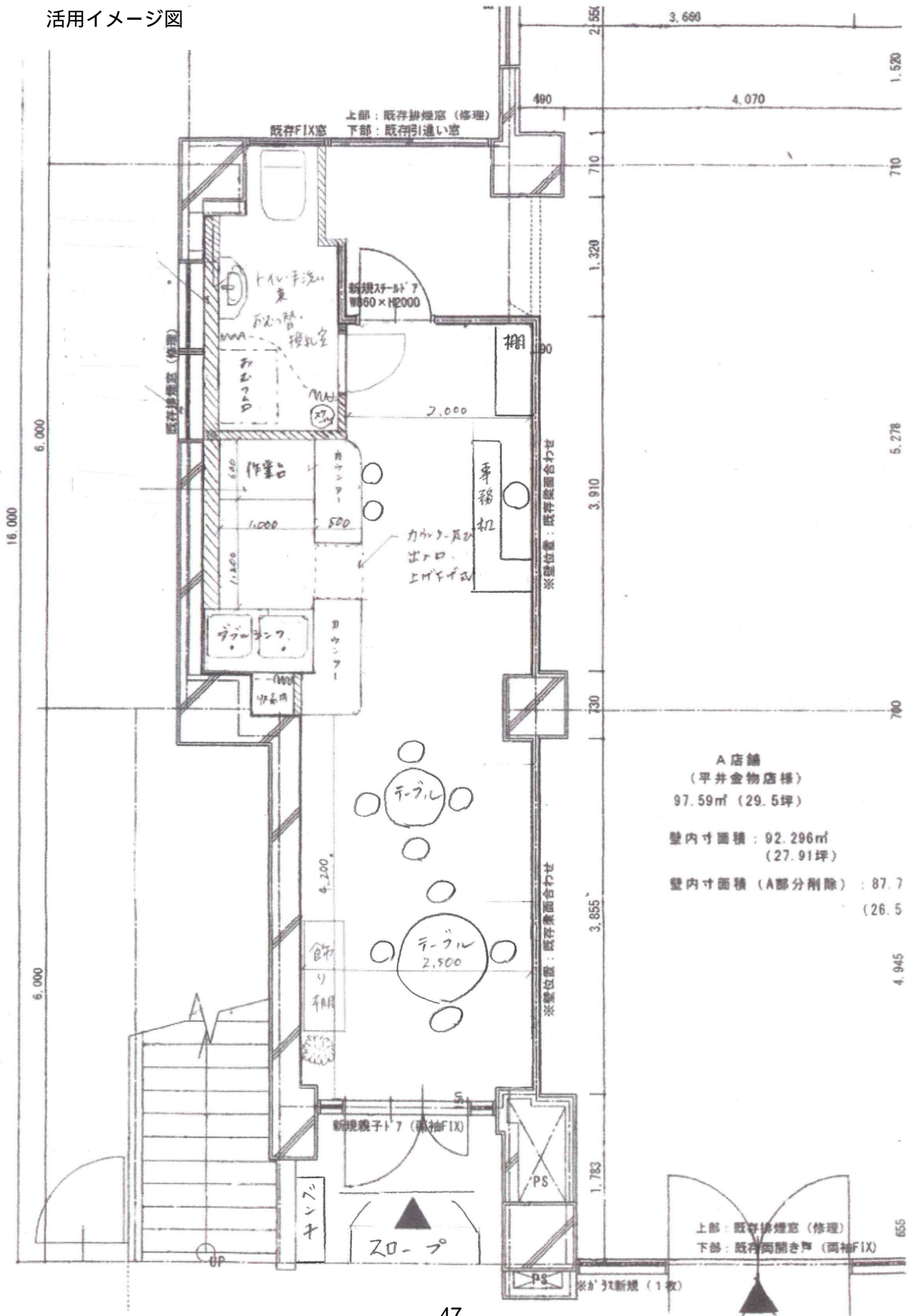


外観



整備場所

活用イメージ図



A店舗
(平井金物店様)
97.59㎡ (29.5坪)
壁内寸面積 : 92.296㎡
(27.91坪)
壁内寸面積 (A部分削除) : 87.7
(26.5)

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	子どもと大人のまなびば そらいろ
現在の主な活動 内容・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和5年6月発達に凸凹のある子どもの「個別のまなび支援」を開始 ② 令和5年8・9月空き家の改修の参加者と「共食」によるつながり作り ③ 令和5年10月現在の場所をオープン。「そらいろイベント」でおやつと飲み物の「共食」を導入。そらいろコラボレーター※の募集開始。 ④ 令和6年4月コラボレーターと共同企画で「共食」とシェアのイベントを開始
提案場所	泉区中田東3丁目
提案名 (25字以内)	多様な人々が共食で繋がる探求と表現の「まなび」の場
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>老若男女、障がいのあるなしや立場に関係なく、今その人が探求したいこと・表現したいこと・体験したいことなどの「まなび」を応援する場。イベント等に「共食」の機会を設け、想いをシェアしながら「まなび」や関わりを深める機会にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 共食を支えるキッチン(ランチの提供や菓子製造販売のためシンクや仕切り) ② 多様な人の参加に対応できる間取り(部屋やトイレを広げる・授乳などができる多目的ルーム・車の騒音や2階足音などの防音対策) ③ 外から人が入りやすい外観(キッチン外のチャイム、サンシェード、外壁) <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ (提案する施設でどのようなことを行いますか)	<p>【現在実施している活動】</p> <p>「1.個別のまなび支援」や「2.そらいろイベント」(子どもから大人まで対象の体験・協働・シェアを大切にしたいイベント)のほか、やってみたいことをとことん追求する「3.そらいろ探求スクール」や余暇のためのサードプレイス「4.アフタヌーンクラス」を実施する。</p> <p>【整備後の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント後のランチ提供による「共食」で安心して人と繋がる場になる キッチン整備後、イベント時にはおやつだけではなくランチの提供が可能となり、より「まなび」や関わりが深くなる。また、昼間地域で過ごしている社会的に孤立しやすい方も、ランチの「共食」をきっかけに活動に参加し、じっくり話すなどして安心して人と繋がることができ、さらに利用者層が広がる。 ② 多様な人が気軽に入れ、安心して利用できる 多様な人に開かれていることがわかる外観にすることで、そらいろに気軽に入れる人が増える。車いすも入れるトイレや授乳などができる多目的ルームを設置したり、音に過敏な人に配慮し防音対策をしたりすることで、多様な人が安心して利用しやすくなる。また、スペースを広げることで、より安全に活動できる施設となる。 ③ 中田のまちと人をつなぐ施設になる 中田について調べたり中田に関わりのある人に話を聞いたりするなど、中田のよさを発掘し、発信しながら、人を繋げる。地域のお祭り等にも積極的に出かけていき、人や場を繋げていく。その際、チラシだけでなくキッチンで作ったお菓子等が、関心をもってもらうツールとなる。

<p>提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）</p>	<p>① 「共食」で「繋がり」ができ、「絆」が深まると実感 「子どもから大人まで対象」「体験・協働・シェアを取り入れる」「ちょっとした非日常を味わえる」のコンセプトで「そらいろイベント」を行ってきた。休憩や活動体験のシェアの時間におやつを出すと、場が和んで話しやすい環境になり、参加者同士の関わりが深まった。</p> <p>② 多様な人が繋がる場がたりない 「子ども」「大人」「障がい者」など、各世代や人をターゲットにした学びの場は多いが、多様な人が混じりながら参加できる場は少ない。核家族世帯も多く、世代の違う人や障がいのある人の無理解による問題が起こりやすい。</p> <p>③ 中田は高齢者や障がい者が多いが、余暇を楽しむ場は少ない 泉区の高齢者の1/4は中田に住んでいるが、家の中で長時間過ごしている人は多い。また、近年発達障がいとされる子どもが急増していること、中田には作業所など古くから社会福祉施設が多い(2023年で17施設)ことから、障がい児・障がい者が余暇を安心して楽しむ場所がさらに必要である。</p>
<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>① 自分のやりたいことをして生き生きする人が増える まちで行われる行事やイベントに多くの人が活動したり交流したりする場があることで、やりたい活動をして生き生きと暮らす人が増え、まちが活気づく。</p> <p>② 多様な人を受け入れながら、まちの人が繋がり合い、安心して暮らせる 障がいのある方や不登校児、高齢者など社会的に孤立し不安になりがちな人も出かけやすい場が増えることで、多様性を認め支え合うまちになる。</p> <p>③ 中田のまちを誇りに思い、まちや人を大切にすることが増える 歴史があり多様な人が住んでいる中田をもっと知ること、わがまちを誇りに思うきっかけになり、住み心地がよくなる。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>そらいろコラボレーターやイベント等の参加者、自治会の町内会や子ども会などに呼びかけて、DIYをイベントとして行う。</p> <p>※そらいろコラボレーター：探求・表現の「まなび」やつながりを応援するそらいろの理念に賛同し、自身も「まなび」を深めていこうとする人（現在は登録制）</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>・運営に関わるそらいろスタッフやそらいろコラボレーター（現在約20名）が、運営業務の他、チラシの配架依頼、イベントの手伝い、イベントの企画・運営など、関われる範囲でボランティアとして活動する。</p> <p>・踊場地域ケアプラザ、泉地域活動ホーム、泉区社会福祉協議会、泉区子ども若者の居場所連絡協議会、「音楽スペース おとむすび」や「宮ノ前テラス」など近隣の居場所等と連携する。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>共食を通して心を開き活動をシェアする「まなび」の場です。地域への存在感や部屋の使い方の改善、共食を支えるキッチンを整備することで、多様な人が集まりやすくなり、人がやりたいことを生き生きとするまちづくりに貢献できると考えます。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

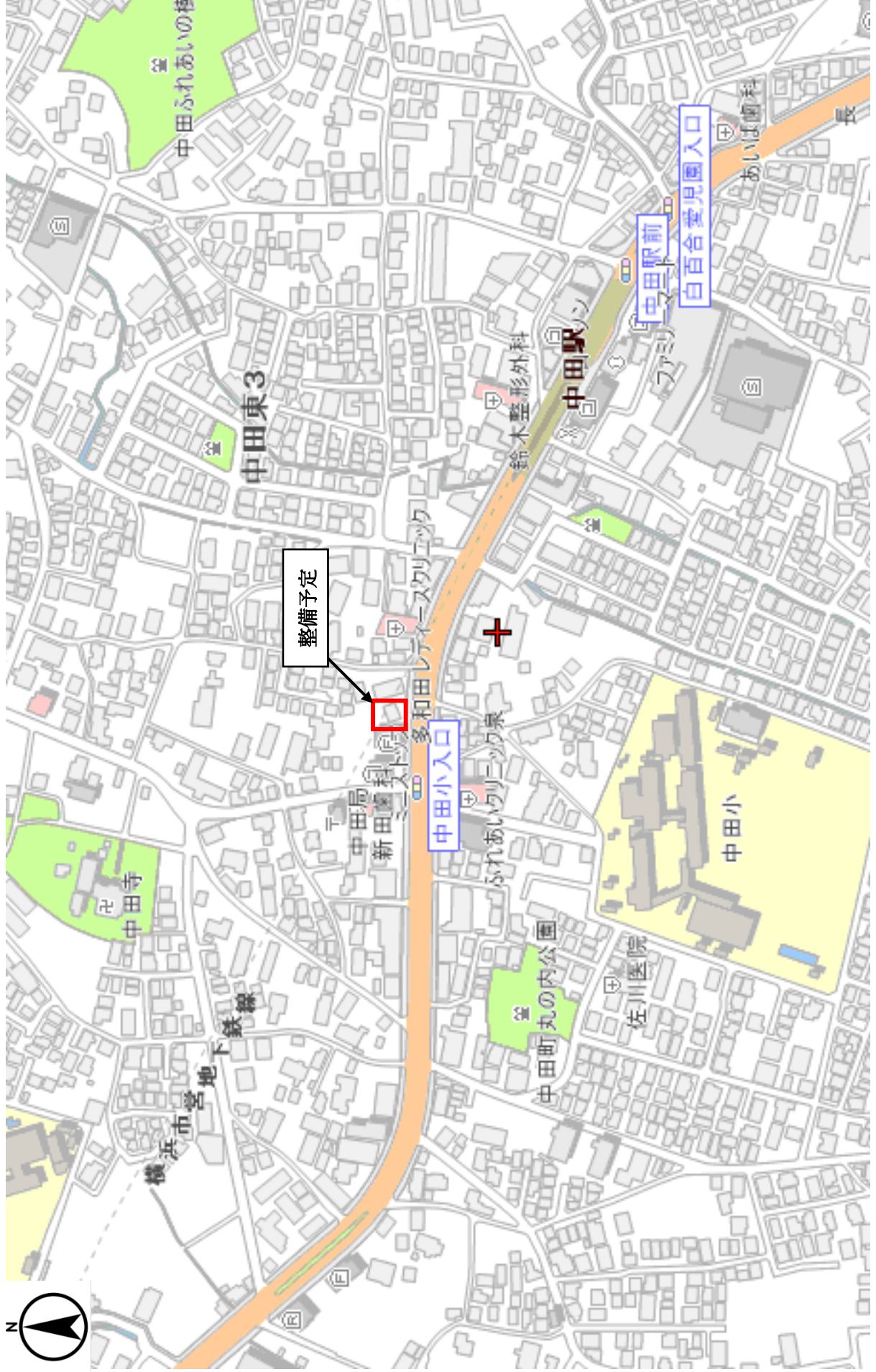
整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
大家さん	理解を示している

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

<位置図>



「子どもと大人のまなびば そらいろ」現況写真



外から気軽に
入りにくい外観



大勢の共食を支えきれない
キッチン



狭いトイレ



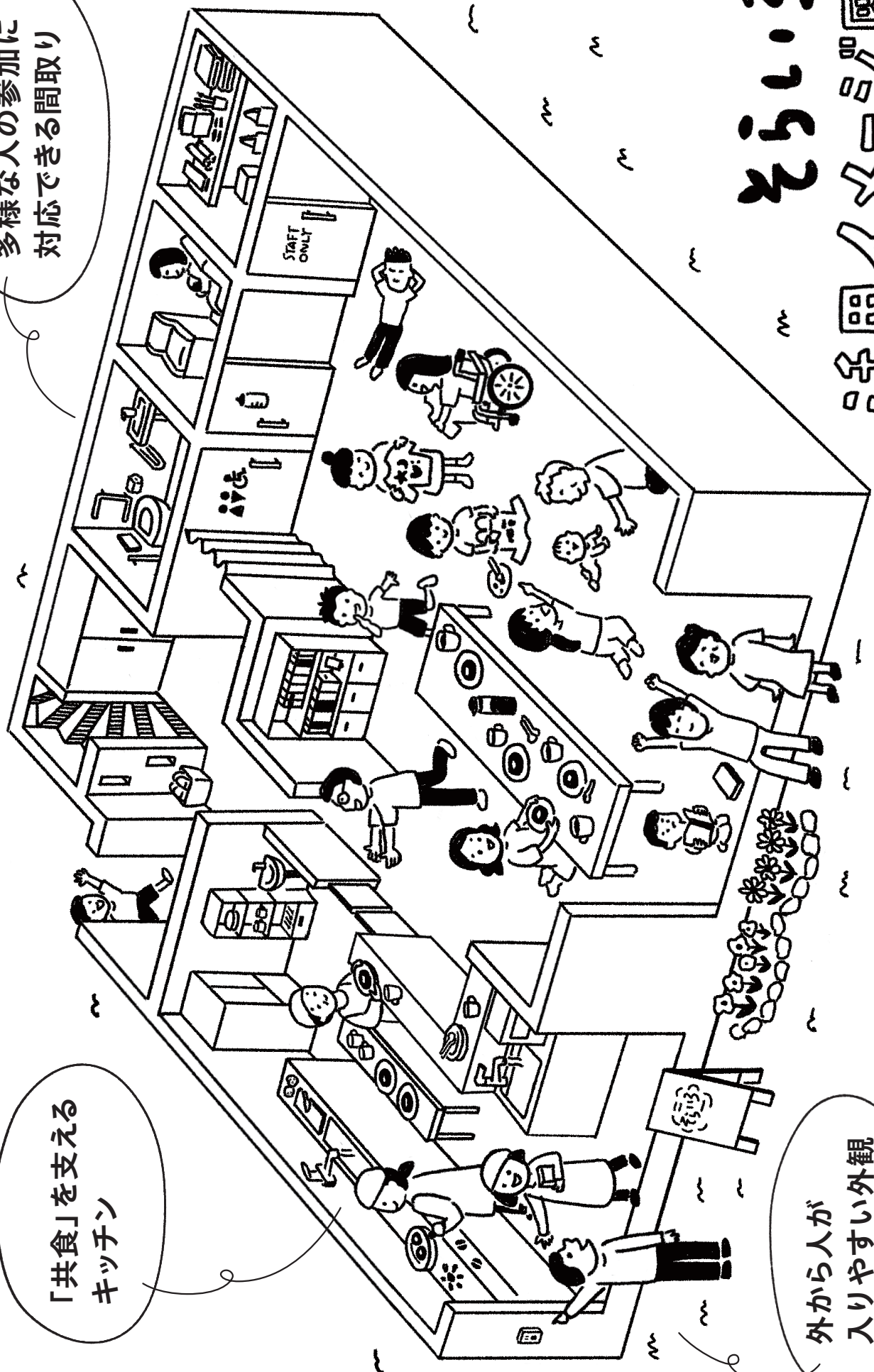
大人が多いと
狭くなる部屋



イベント後の「共食」・
シェアタイム

とらいる 活用イメージ図

多様な人の参加に
対応できる間取り

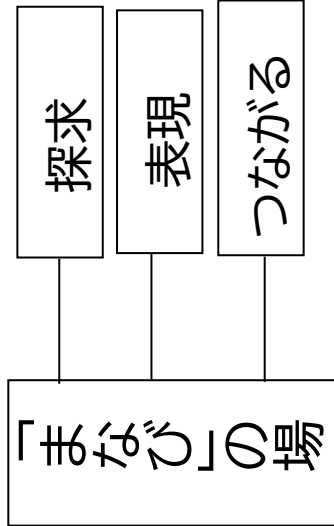


「共食」を支える
キッチン

外から人が
入りやすい外観

そらいろの活動

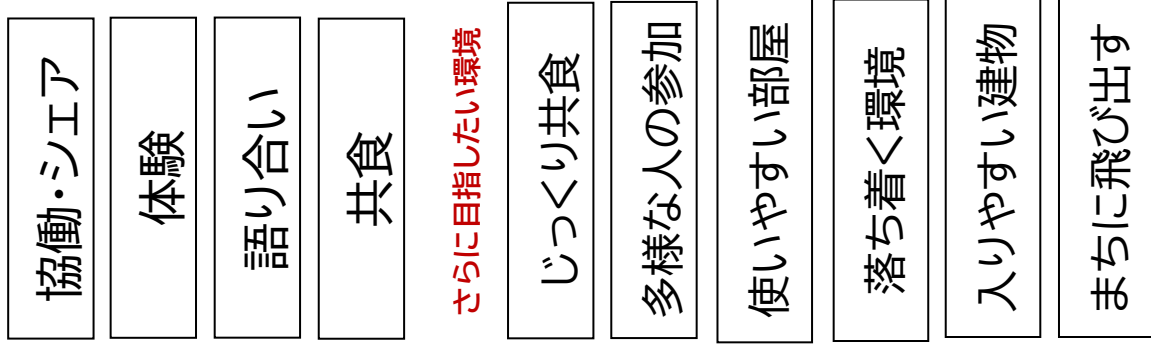
- 老若男女、障がいのあるなしや立場に関係なく、今その人が探求したいこと・表現したいこと・体験したいことなどの「まなび」を応援する。
- イベント活動等に共食の機会を設け、それぞれ表現や想いを人とシェアしながら「まなび」を深める機会にする。



【そらいろ これまでの経緯】

- ① 令和5年6月 発達に凸凹のある子どもの「個別のまなび支援」を開始
- ② 令和5年8・9月 空き家の片付け・改修の参加者と「共食」によるつながり作り
- ③ 令和5年10月 現在の場所をオープン。「そらいろイベント」でおやつと飲み物の「共食」導入
- ④ 令和6年4月 コラボレーターと共同企画のイベントを開始

これまでの参加者の活動



まち普請でリノベーション

①共食を支え、人をつなぐキッチンに

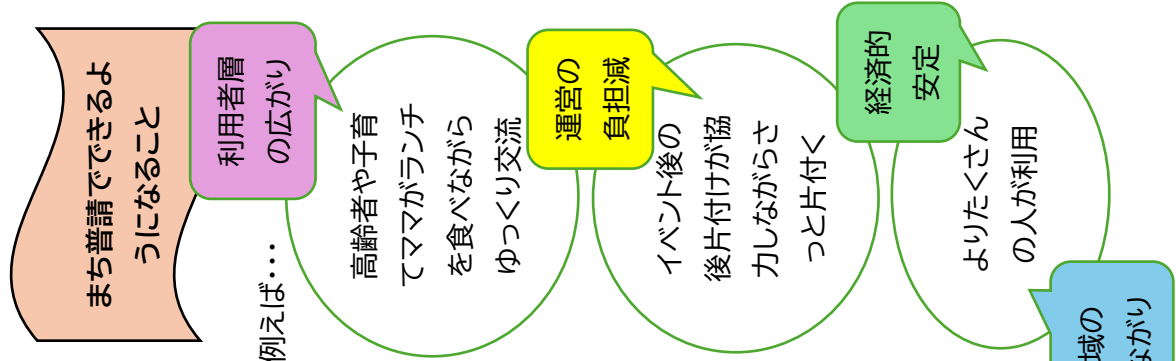
- ・食品営業許可・菓子製造許可のキッチン
- （食器洗い用のシンクを増やす、仕切り兼収納棚の設置）

②多様な人の参加に対応できる間取りに

- ・より広いトイレや部屋（壁を抜くなど）
- ・授乳等ができる多目的ルーム
- ・車の騒音や2階床音などの防音対策（内窓設置や2階床のコルク貼り）

③外から人が入りやすい外観に

- ・キッチン外のチャイム
- ・サンシェード
- ・看板設置・入りやすいデザインの扉・壁



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名	マークスプリングス自治会
現在の主な活動内容・活動実績	町内の自治会活動 毎月1回の役員会議及び、年10回以上のイベント企画・運営 ・地域の防災に向けた活動 ・地域の住民交流に向けた活動
提案場所	瀬谷区 五貫目町
提案名（25字以内）	地域に住民の集えるキッチン付きサロンの開設
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在図書ルームとして使用されている施設を、キッチン付きのサロンに改修し、住民が集えるサロンに整備する また、災害時には衛生的な炊き出しが行える避難所として運営予定（キッチンの新設、給湯器の設置、テーブル・椅子収納庫を新設） ・現在放置されている住民寄付による図書を整備し、貸し出しのできるブックカフェのような図書サロンに整備する（図書棚を整備し、現在ある本を整理、住民からのリクエスト図書など新書を導入・貸し出しができるようにシステムを整備） <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<ul style="list-style-type: none"> ・週に何回かシニアの集えるサロンを開催 コーヒーや手作りスイーツなどを食べながら交流ができるように時折蕎麦マイスターを招いて蕎麦作りなど趣味の講座や講習会、体操教室などを開いて、活力のあるシニアライフの糧にもらう ・子育てママたちが子供連れで集える交流会を開催 お茶を飲みながら子連れで気兼ねなく交流できるように。時折保育士や保健師、栄養士、主任児童委員など子育てや家庭に関連する多方面の専門家を招いて、様々な情報や知識などを収集できる場にする。相談会や、親子向けの読み聞かせ会なども開催する ・子どもが学校帰りにフラッと立ち寄って、本を読んだり、友達と遊べる場所として役立てたい。レクリエーションやお菓子作り、皆で夕飯を作って一緒に食べる機会を設け、地域の中に子どもの居場所を作りたい ・災害時、衛生的な炊き出しができる避難所として運用
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>これまでも当該サロンを使用し、地域住民の集えるイベントなどを開催していましたが、キッチン設備がないため屋外の散水栓から水源を引き屋外に外付けのシンクを設置して使用、調理用の水はペットボトルを購入して準備、調理台は会議用の長テーブルを倉庫から運び込み使用、その長机にカセットガスコンロを複数台並べ調理をしておりました。</p> <p>そのため設営に時間と労力を要すること、また屋外でお湯が出ないた</p>

	<p>め調理器具を洗うにも冬場は水が冷たく、汚れも落ちにくく、作業をするスタッフにも負担がかかっておりました。</p> <p>また、当該施設は災害時に避難所として使用予定のため、炊き出しの際にも衛生的に調理ができるよう、屋内にキッチンを整備したいと考えております。</p> <p>なお、当該施設は元々図書ルームとして設置ありますが、本を整理・管理する人員がおらず本の手入れが行き届いていない状況で利用者も少ない現状です。せっかくの共同スペースをもっと住民のために有効活用し、平時から地域住民の交流の場として、そして災害時は避難所として活用できるよう、設備を整えたいと考えております。</p>
目指す地域の将来像	<p>地域の中で子どもたちに、楽しかった思い出を沢山増やしてもらい、大人になって家を出ても、家族ができたならまた地域に戻って来たいと思えるような循環型社会を実現したい。</p>
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<p>自治会役員65人、そして地域内のシニアの会や介護施設輝の杜、管理組合とも連携し実施に向けて取り組む。</p> <p>また、輝の杜の改修に携わっている建築士（わくわくデザイン）さんに設計面で相談を行い、734世帯の地域住民のスキルを最大限活用（リフォーム業者などのつて）し、実施に向けて取り組む予定</p>
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<p>734世帯ある街なので、様々な職種をリタイアしたシニア、枠に囚われない柔軟な発想ができる子どもたち、日中動きやすい専業主婦・夫など、様々な技術やアイデアを持った人材が溢れています。</p> <p>サービスを受ける側が、サービスを提供する側にも回ることで、地域の中で運営していくことが可能と考えております。</p> <p>また、敷地内にある介護施設「輝の杜」とも地域の活性化という点で協力し合う関係を築いております。相互に施設を使用しあえる関係づくりをこれから進めていきたいと考えております。</p> <p>また、近隣町内会（瀬谷北部町内会連合）とも良好な関係を築いておりますので、運営に際し協力していただく事が見込まれます。</p> <p>地域の民生委員・児童員とも協力し、高齢者食事会や、親子のひろばなどをこちらで開催できたらと考えています。</p> <p>近隣にある親子のひろば『きりかぶ』さんとも連携し、昼食時にはこちらを利用してもらうなど可能性を模索できると考えております。</p>
その他特にPRしたい点。	<p>横浜市でも大和市と東京都町田市に隣接する瀬谷区、区役所に行くにも横浜駅に行くにも1時間に1～2本程度のバスと電車を乗り継がなければならず、地域において住民同士の助け合いや防災力向上などが求められている地域になります。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
<p>マークスプリングス団地管理組合 マークスプリングスC棟管理組合</p>	<p>管理組合から応募の了承を得て、今後運用細則や住民説明会などに向けて話し合いを重ねることとなりました。</p>

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

整備場所



ヨコハマ市まち普請 マークスプリングス自治会
現況写真と活用イメージ図



外から見た施設



ガラス扉を開けた
室内空間

この手前の部分に
キッチンの新設を
検討しています。



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	師岡熊野神社「いの池」愛護会
現在の主な活動 内容・活動実績	令和元年設立以来、いの池およびその周辺をきれいにする活動をおこなっている(会員数45名)。 池は水質改善などのために年2回のかいぼり(池の水を汲みだして池底の堆積泥をさらう)をおこない、かいぼりで引き上げた堆積泥を池岸で乾燥させて市民の森に返し、一部は地域の畑の肥料に使うなど循環型の環境保全に取り組んでいる。 活動には、子供たちも含め地域の人たちが多数参加している。
提案場所	港北区師岡町
提案名 (25字以内)	いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	①道路を隔てた熊野神社の社殿裏手でポンプアップされ、「令和神苑」を経由した後に排水されている地下水を「いの池」に導水する。道路の横断は配管を埋設する予定。 ⇒流入水がほとんどない池に、新鮮な水を継続的に導入し抜本的な水質改善を図る。 ②池の護岸の石垣等の修復と水辺の魅力創出のための整備と植栽 ⇒崩れかけている石垣や浮石の修復が急務 ⇒かいぼりを効率的に行うための堰の設置や排水口の整備 ⇒水辺に親しめる階段の設置と池の周りに植栽する 子どもたちが自然に親しめる場を整備する ③活動掲示板の設置 ⇒愛護会活動の紹介と行事開催案内等の掲示 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ (提案する施設でどのようなことを行いますか)	◎池をきれいにする活動を通して、大人と子供の世代をこえた地域コミュニティ創出の場にしていく(かいぼり、定期的な清掃、竹灯籠・池のライトアップなどの活動を企画実施)。 ◎将来の活動の主役になる子供たちに、池に親しめる経験、池に生きる多様な生物に触れる体験を得られる場を用意し、護っていく(大人と協働してのかいぼりや清掃体験)。 ・師岡小学校の校外学習による清掃活動の参加は循環型社会の教育の場の一つになる。
提案の背景(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してく)	◎いの池は「い・の・ちの池」のひとつとして、古くは師岡のcommons(共有地)として田畑を潤す貴重な水源として利用され、地域の人々が大切に護ってきた。しかし、新幹線開通や近年の田畑の宅地化で地下水の通り道が変わり、貴重な湧き水の行き先がいの池から下水道になって、池の水が循環しなくなってしまった。夏

ださい)	<p>には池にアオコが発生するようになり、僅かに異臭がするまでになってしまった。</p> <p>◎いの池は1300年の歴史を持つ師岡熊野神社の一角に位置し、横浜市の史跡に登録されている。いの池は町のオアシスとして地域の人々から愛され、自然に触れられる場であり、地域の歴史を知るうえで貴重な場でもある。</p> <p>◎地域の要望もあり、池の自然を再生する必要が迫られている。</p>
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<p>◎いの池の水の環境を改善し、師岡地域の自然を保全することで、子どもたちが自分のふる里に誇りを持てるような地域にしたい。</p> <p>◎いの池を地域で護るための様々な活動を行うことで、池に来れば、知っている誰かがいるような地域コミュニティを活性化させる。そのための仕掛けとして、他の団体と連携して竹灯籠の設置や池のライトアップなど新たな活動を企画する。</p> <p>◎池を中心とした谷戸の地形を活かした整備を行うことで、水系や生態系を理解する場となるようにしていく。</p>
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<p>◎周辺の整備などは「いの池」愛護会会員(以下「会員」という)が主体に作業をおこなう。</p> <p>専門の整備工事は地域の状況を良く知る事業者などに依頼する。</p> <p>◎資金面においては、会員からの会費を当て、また会員及び活動協力者(子育て中の大人と子供が多い)から作業用具・動力や車両の提供も受けていく。</p>
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	<p>◎会員を中心に、賛助会員のいざなみ会、友好団体の神輿会及び活動協力者により環境保全活動を続けていく。</p> <p>◎活動で使用する作業用具の一部及び動力や運搬車両は引き続き地域の協力者個人から提供を受ける。</p> <p>◎活動費用は会員からの会費で賄う。</p>
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>◎地域の子供と大人がみんなで考え、話し合い、共に行動し、いの池を中心とした地域資源循環システムを再生し、維持する。</p> <p>◎いの池の再生と維持のための活動体験を通して、子供たちに自然への思い、ふる里への愛着の醸成を図る。</p> <p>・これを一つのモデルとして、師岡町に残る市民の森愛護会が管理する森全体の保全活動に波及させていく。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいる。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
<ul style="list-style-type: none"> ・地権者 ・道路占用許可申請先 	<p>活動を支援する</p> <p>申請が提出されれば検討する</p>

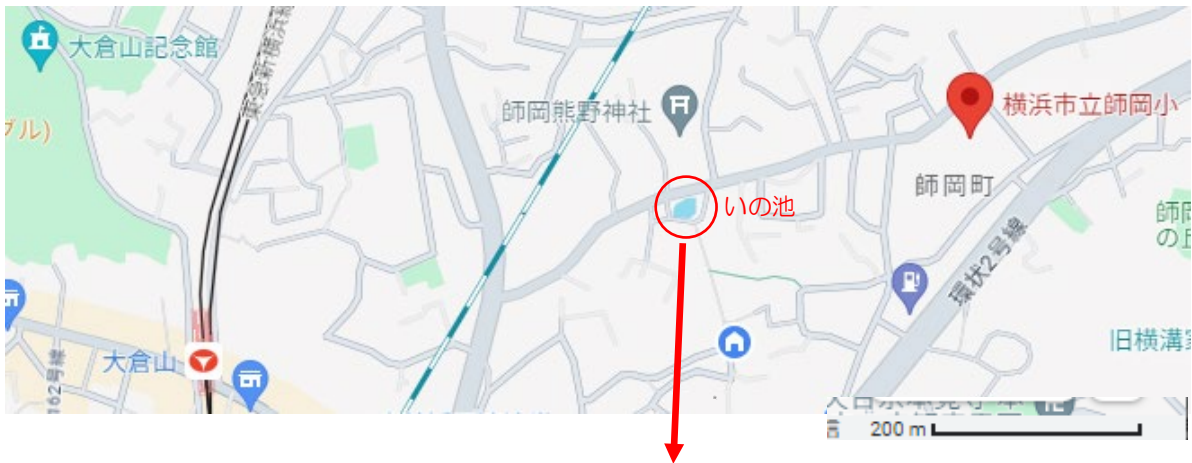
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

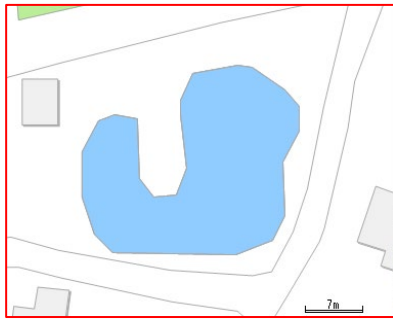
整備場所 位置図

出典:Google map



現況写真

◎いの池の大きさ



東西×南北 31×23m 面積 467.5 m² (東側が約 2 倍広い)

水深 25~35cm 堆積泥の厚さ 20~50cm

◎愛護会を結成(2019年)

◎2019年春に池西側の水を抜いてかいぼり(小学生も参加)

引き上げたもの：堆積泥 約 1 トン、枯枝 約 300kg ゴミ等 約 50kg

生物の調査：鯉、フナ他に加えて在来種モツゴ、スジエビ 外来種アメリカザリガニ、カダヤシ、アカミミガメ



◎以降、子供と大人の参加による定期的な池周囲の清掃と春秋にかいぼり(年少さんから 80 才超まで毎回参加)。

引き上げた堆積泥(毎回約 2 トン)はごみを選別して池岸で乾燥後、市民の森内に搬出・一部は畑の肥料に利用して「地域資源循環型の環境保全」を実践している。



◎地域の子供と大人で「いの池」を護るコト

⇒地域コミュニティづくりにつながっている

×夏季には水量が減り水質悪化・アオコが池を覆う

⇒池に流れ込む新鮮な水が必要

×石垣が老朽化・崩れかけて危険

⇒修復することで池の魅力が向上、誰もが楽しめる水辺空間に

活用イメージ図

◎熊野神社令和神苑からの導水(撮影位置は位置図参照)

地下 36m からくみ上げ令和神苑を循環した水を、高低差を利用していの池に導く。



①取水予定場所



②導水ルート



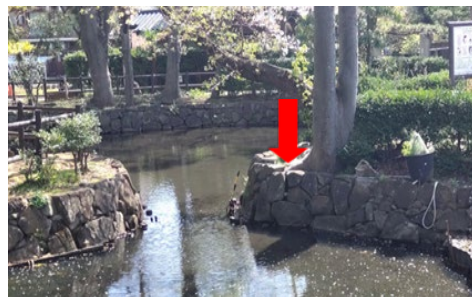
③道路横断配管の予定場所



④いの池への注水口

◎池周囲の環境整備

老朽化した石垣の補修などをおこない、景観向上。



排水口の整備(水位調整を容易にする)



池の水辺に降りる階段の設置

いの池の環境改善の取組みにより

◎地域の子供と大人がみんなで考え、話し合い、共に行動し、「いの池」を中心とした地域資源を循環するシステムを再生し維持する

◎活動の体験を通して子供たちの成長をはかる

⇒それを一つのモデルに、師岡町に残る市民の森愛護会が管理する森の保全活動に波及させていく

師岡熊野神社 いの池愛護会の紹介

〈最新の活動状況〉
Instagramをご覧ください
〈お問合せ先〉
kumano.inoike@gmail.com
または
熊野神社 045-531-0150



inoike.aigokai #いの池愛護会

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 1

池をきれいにする活動をしています

- ◆ 設立 令和元年12月
きれいな「いの池」を護るために
 - 子供と大人が共に力をあわせて活動します
 - 活動を地域のコミュニティづくりにつなげます
- ◆ 主な年間行事(令和4年の実績)
 - 3月 総会・年間計画の策定
 - 5月 春の清掃・池内外の植栽手入れ
大人と子供のかいぼり体験会・ザリガニ釣り
 - 7月 夏の清掃・かいぼり土の搬出
 - 8月1日 弁財天例祭
 - 10月 秋の清掃
 - 11月 一斉落葉清掃
本格かいぼり
 - 12月 年末の清掃・ライトアップの試行

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 2

かいぼり体験会(春)本格かいぼり(秋)



- ◆ 子供たちも池にはいって池岸に堆積土を引上げ
- ◆ 小さな子供たちはザリガニ釣りに夢中
- ◆ お昼はおにぎりや豚汁を食べながら参加者が交流
(総代会差入れといざなみ会の協力による)

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 3

弁財天例祭(8月1日)・清掃活動



- ◆ 弁財天例祭
 - いの池の歴史を学習(宮司さんの講話)
- ◆ 清掃活動
 - かいぼりで引き上げた堆積土を搬出
(市民の森内および一部は畑で利用して資源循環)
 - 落葉清掃、除草・水源地の草刈、水中の枯枝引上げ

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 4

水質改善の取組み



花しょうぶ (榎町の旧家提供) たまりゆう 折鶴らん 水ろ過・水中散気 式坂麓からの導水

- ◆ 取組み中の池の環境改善
 - 植栽、池内の水ろ過・水中散気(ソーラ電源で稼働)
 - 周辺の樹林管理(横浜市と取組み中)
- ◆ 式坂麓からの導水実現(横浜市と取組み)
 - 第1段階 池への雨水導水口を設置(2020年3月)
 - 第2段階 横井戸の再生(2020年9月～取組み中)
- ◆ 神社からの導水実現(取組み中)

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 5

池にすむ生き物・池を訪れる生き物

- ◆ 池にすむ生き物
(在来種)

 フナ	 クチボン	 ヌマエビ
 カタヤシ	 アカミガメ	 ザリガニ
- ◆ 池を訪れる生き物

 トンボ	 カワセミ	 カモ	 シロサギ	 アオダイショウ
---	---	---	---	--

Copyrights (C)2024 いの池愛護会 6

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	鶴ヶ峰地域caféチーム
現在の主な活動 内容・活動実績	出産と子育て支援活動のNPO法人Umiのいえを運営して18年、コロナ禍で活動を自粛して、活動場所である西区平沼橋の物件を解約し、今現在は、メンバーの自宅や、クリニックや公共施設を借りて運営中。母親たちと子ども達のための講座やワークショップを展開してきた。
提案場所	旭区鶴ヶ峰二丁目
提案名 (25字以内)	子供と親を中心とした多世代が集える食堂&居場所
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	メンバーの自宅は、今現在も、一部を開放して集いの場としてお貸ししたり、子ども食堂などを開催してきたが、より安全に快適に広々と使いやすくし、孤立している子育て世帯（外国人も含む）や、小中高生が気軽に立ち寄り交流できる場としたい。（近隣にも空き家があるので、空き家活用も視野にいれている。） <ul style="list-style-type: none"> ・1階奥の和室を集いの場に改装 ・道路からの玄関へのアプローチのバリアフリー化 ・1階リビングの改築 整備費用の概算額：約 500 万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	地域住民がお互いを助け合うきっかけ作りができる居場所 災害時に集まり、衣食住を提供できる避難所機能を持つ場所 お寺のように、花や草木や金魚を愛でたり、お茶を飲んで談笑したり、困窮者に健康的な食事を提供したり、悩みを打ち明けたり、聞いてもらったり、体調が悪い人が休んでいけるような所。 ちょっと立ち寄って一息つける所。 具体的には「地域の保健室」「授乳室」「対面カウンセリング」などを想定。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	高齢化社会と言われ久しいが、旭区は横浜市で高齢者率が最も高く、鶴ヶ峰は旭区内でも高齢者率が高い地域です。 近隣の住民も高齢者ばかりで、独居高齢者も多く、一日中ほとんどの時間を一人で過ごしていらっしゃいます。何かあった時気づく人はいるのだろうか心配です。 高齢者の方が亡くなると空き家が増えます。整備場所の周りだけでも3軒空き家があります。さらに2軒空き家があったのですが、先

	<p>日それぞれ解体された後、小さな三階建て新築がすぐ数軒建ち、若い子育て世代が入居しました。</p> <p>鶴ヶ峰二丁目は駅へ徒歩圏のため、高齢者が亡くなると小さな新築が2、3軒建ち、そこへ若い世代がどんどん入居しています。相鉄線の相互乗り入れ後、鶴ヶ峰2丁目は高齢者と若い子育て世代の二極化が進んでいますが、それぞれ町内会に入らない家庭が増えています。</p> <p>高齢者は孤立し、引っ越してきた子育て世代も地域になじむ機会がなく孤立しがち。隣の家庭はどんな人達かよくわからない、助け合いが難しい状況となっています。</p>
<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>地域の住民が暮らし、子育て、仕事、災害時、ライフイベント等で助け合える地域。</p> <p>普段からコミュニケーションが活発で、人生の豊かさを感じられる地域。</p>
<p><u>整備時の協働</u> （つくるときに連携する仲間や活用する地域資源^{注4}）に触れて説明してください</p>	<p>近隣地域に、不登校の集い場や日替わりカフェなど友好団体がいくつかあり、そのスタッフと協力して、築山や玄関アプローチの草取り・石取り、内装作業などの整備作業が可能。</p> <p>地域に元大工さんがいる。整備時は地元の工務店へ依頼する。</p>
<p><u>運営時の協働</u> （運営するとき連携する仲間や活用する地域資源^{注4}）に触れて説明してください</p>	<p>親水公園が近くにあり、散歩や運動、外遊びなどにも活用できる。</p> <p>町内会と連携ができる。</p> <p>上記の近隣友好団体と、企画運営・広報など協働して行うことができる。</p> <p>児童養護施設と連携できる。</p> <p>福祉障害者施設と連携できる。</p> <p>保育園が近く、園児が散歩に通るので交流できる。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等 ^{注5} への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物所有者	メンバー自身が所有

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

記載内容は真実であり、虚偽はありません。

記載内容に個人情報はありません。

● まち普請申請（鶴ヶ峰地域 café チーム）：位置図



出展：Google Map

現況写真



●活用イメージ(鶴ヶ峰地域 café チーム)



【一階リビング南側】

壁を壊して、築山側にサンルームのような小部屋を建て増す。プライバシーを守って滞在できる小部屋にて「地域の保健室」「授乳室」「対面カウンセリング」などに活用を想定している。



【一階奥の和室】

20人ほどが集える、活動の中心フロア。茶道用の炉もある。ロールスクリーンやプロジェクタも設置し、地域のお茶会、各種講座、子育ての集い、手芸の会、着付け教室、映画上映会などでもできる集いの場としての活用を想定している。築山側の窓の外の縁側も整備したい。築山の緑を存分に眺めることができる。



【道路から入口までのアプローチ】

現状、凸凹やひび割れなどが多い。車いすやベビーカーなどがスムーズに出入りできるよう、舗装の修繕を行う。

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	パレット境木ベース運営委員会
現在の主な活動内容・活動実績	<p>運営委員会は地域の方と協力し、イベントを主催・企画運営している。</p> <p>①マルシェ（年2回）：商店街の空き店舗や軒下を活用、約8店舗が出展し、地元の食材を使った料理や手作りの雑貨などが並ぶ。</p> <p>②コラボショップ（不定期だが月4回程度）：提案メンバーの店舗で、限定的にオープン。不定期開催なので、幻のお店として地域から楽しみにされている。</p> <p>③商店街イベントへの参加（年3回）：境木商店会主催のイベントにて、提案メンバーは積極的に出展、ボランティアでも協力し、地域のにぎわいづくりに貢献している。</p> <p>上記の活動を通して、様々な形で地域交流できる居場所づくりを目指している。</p>
提案場所	保土ヶ谷区境木本町
提案名 (25字以内)	懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>現在の活動は、主に商店街の中の空き店舗（常にシャッターが閉まっている）を活用している。地域の誰もが知るクッペ（パン屋）の空き店舗を借り上げ、この活動の拠点となるようにリノベーションし、多世代が自由に通え、地域交流が楽しめるイベントスペース「パレット境木ベース」を作る。</p> <p>【1階：イベントスペース兼フリースペース】</p> <p>①折り畳み式カウンター ②おむつ交換台付きファミリートイレ③冷暖房の設置</p> <p>【2階：シェアキッチン&カフェ】</p> <p>①菓子製造業許可付きシェアキッチンの厨房設備 ②カフェスペースカウンター席及び多目的カウンター取り付け ③床・壁の張り替え ④冷暖房の設置</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500 万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>【1階：イベントスペース兼フリースペース】</p> <p>①マルシェやコラボショップの出展、健康講座やものづくり系のワークショップ等を毎月複数回開催。</p> <p>②フリースペース：商店街やパレット境木ベース内で調達した飲食物を、その場で食べられるイートインコーナーを設置。オープン時は誰もが利用できる休憩所やクールシェアスポットとしても活用。</p> <p>③地域支援：連携する境木商店会のイベント時には、案内所や公衆トイレとして利用可能とする。近隣高校有志ボランティアとコラボレーション企画を検討。</p> <p>【2階：シェアキッチン&カフェ】</p> <p>①イベント出展者が利用する、菓子製造業許可取得シェアキッチン（製造後は2階カフェスペースや1階フリースペースでの提供や販売が可能）。</p> <p>②シェアキッチン&カフェにて、1Dayカフェをオープン希望の方と運営委員会が協力して企画する、地域の方が交流できる「街のカフェ」を週2回程度開催。</p> <p>③食育・料理教室：地域住民等がチャレンジする、味噌作りやパン作りなどの食育系のワークショップや料理教室を季節ごとに開催。</p>

提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>①提案する地域は、小さいながらもバスターミナルがあり、小・中学校が隣接し26店舗ほどの商店街がある。高校の通学路で病院や銀行ATMもあることから、多世代の地域の方が通い続ける立地。そして旧東海道に位置し浮世絵にも描かれている宿場町で歴史的な場所でもあり、他地区からの来訪もある。</p> <p>②人が集まりやすい場所にもかかわらず、商店街のシャッターが閉まっている店舗が増えている現状を見て、地域の資源である商店街の中央にある、地域から最も愛されていたクッペ（パン屋）の空き店舗を、次世代に繋げる交流の拠点として活用しようと提案。この場所で行う年2回のマルシェのイベントでは、どのお店も長蛇の列ができ、イベント終了時間前には、ほぼ売り切れるほどの賑わいになる。</p> <p>③地域の世帯は市内外からの移住者も多く、子育て世代が増え、見知らぬ人が増えている背景（不安）の中、「仲間同士で気軽に集える場所が欲しい」「ゆっくり会話ができるカフェがあれば」「地域で子育てを楽しみたい」といった地域の方のニーズがあり、多世代が様々な形で出会うきっかけとなる居場所づくりが必要と考えた。</p>
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<p>①多世代が参加できる色々なイベントを開催することで、そこで育った子供達が親となって利用したり、大人達が経験を生かせる機会・場所を提供することができる。この取り組みを継続していくことで地域の活性化を目指したい。</p> <p>②ひとつに集まる居場所があることで、自然と顔の見える関係が生まれ、互いに尊重し合い、どんなことにも助け合える豊かな地域にしたい。</p>
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<p>①DIYに必要な道具や材料は商店街内の店舗（電気屋、便利屋、内装屋など）に協力を依頼する。</p> <p>②地域の連携する近隣高校有志ボランティアと、DIY（壁塗り等）交流し、整備後も運営委員会とコラボレーション企画に、参画して頂く予定。</p> <p>③商店街の閉店する店舗から不要な材料や設備品を安く譲ってもらう。</p> <p>④クラウドファンディングを検討中。</p>
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<p>① 運営委員会がパレット境木ベースでの地域の交流企画やワークショップを定期的に運営する。</p> <p>② 自治会、権太坂コミュニティハウスと相互交流をする。</p> <p>③ 地域の生産者に地産地消で野菜を提供して貰う。（カフェ、食育等の食材）</p> <p>④ 運営費はフリースペース・シェアキッチンスペースの利用料、連携する境木商店会からの貸トイレ代・室料・イベント人件費・広告費などを見込んでいる。</p>
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>提案メンバーは整体師、パティシエ、保育士、農家、IT企業会社員など異業種が集まることから、色とりどりをイメージし「パレット」と名付けた。</p> <p>懐かしさや思い入れのある地元地域で、メンバーの経験を活かし、多世代の住民との交流の輪を広げるきっかけ作りをしたい。</p> <p>地域と連携した交流イベントを、パレット境木ベースが核となり行う事で、人と人との繋がりを生み、地元商店街の利用客増、新規店舗参入、長く住み続けたい街づくりなど、地域創生にも貢献していきたい。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

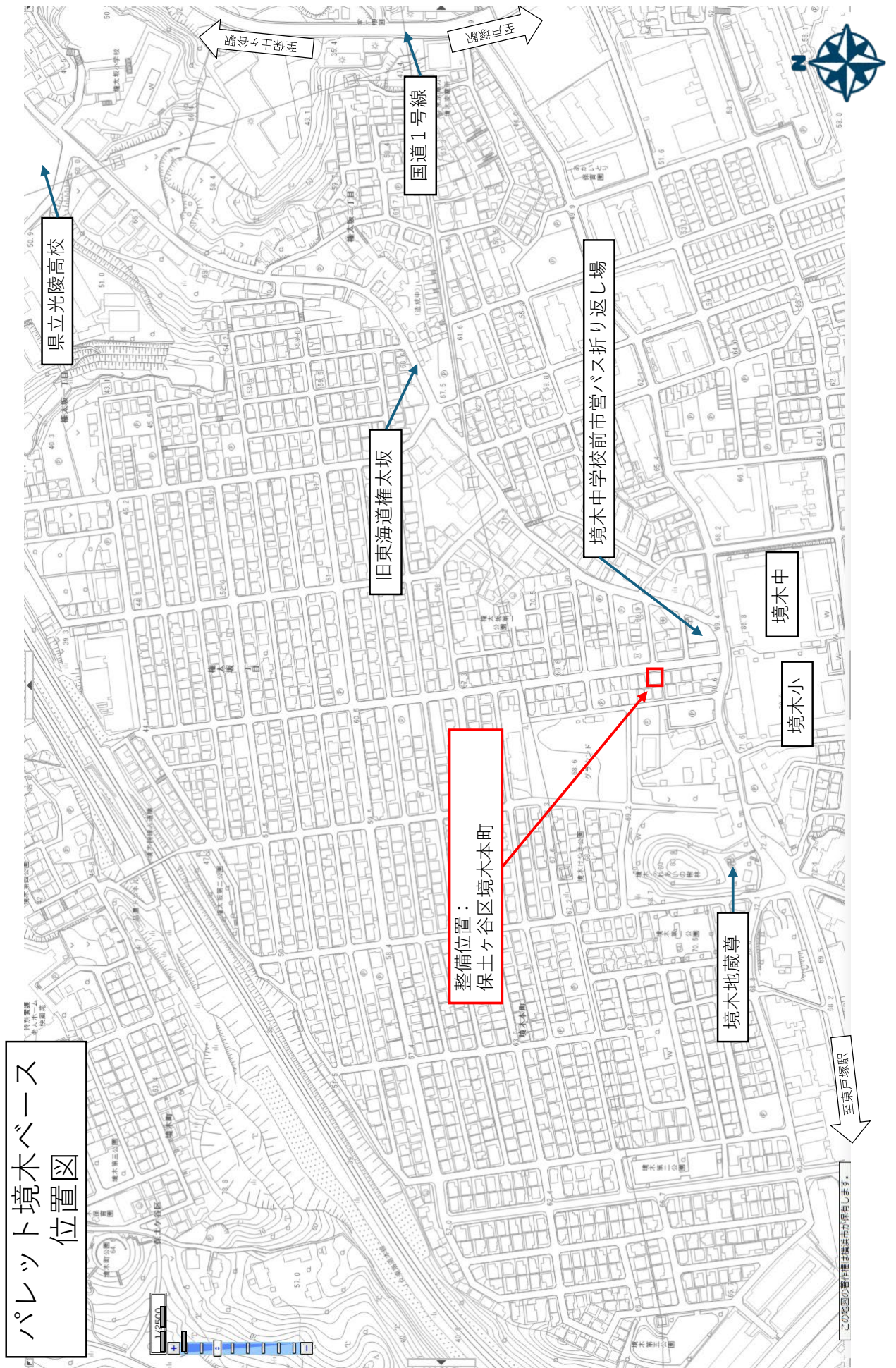
- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物の所有者	提案については賛同頂きましたが、建物が古いのでどこまで整備できるのか心配されている。この提案が実現して、地域の活性化がなされることに大変興味がある。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



パレット境木ベース
位置図

整備位置：
保土ヶ谷区境木本町

県立光陵高校

国道1号線

旧東海道権太坂

境木中学校前市営バス折り返し場

境木中

境木小

境木地蔵尊

至東戸塚駅

パレット境木ベース運営委員会

<現況写真> 2024年5月撮影

①外観



②1階



入口は自動ドア



境木商店街の中央にある、地域の皆さんから最も愛されていた、地域の誰もが知る「クッペ」(パン屋)の空き店舗

③2階.....



フローリング4畳半



和室6畳2部屋



キッチン/都市ガス



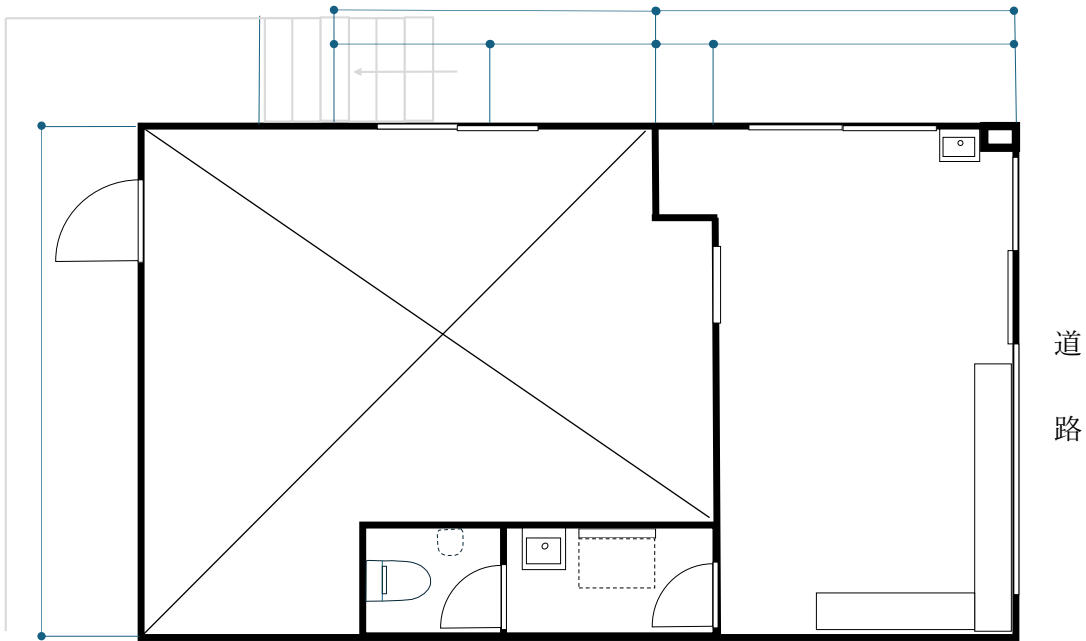
お風呂場・脱衣所



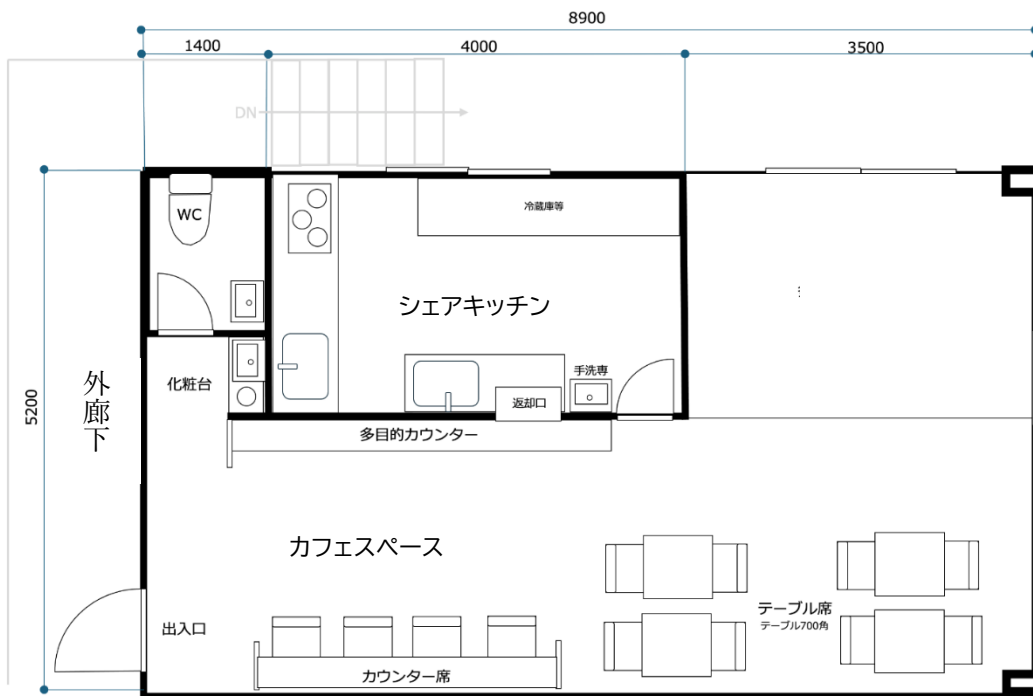
トイレ

パレット境木ベース活用イメージ図

1階イベントスペース兼フリースペース



2階シェアキッチン&カフェ



その他資料

懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点

★パレット境木ベースのこれまでの活動

2021年7月七夕マルシェ

2021年10月ハロウィンイベント(商店会主催)

2021年12月クリスマスイベント(商店会主催)

・

2022年4月アフタヌーンマルシェ

2022年5月アフタヌーンマルシェ

2022年7月七夕市(商店会主催)

2022年10月ハロウィンイベント(商店会主催)

2022年12月クリスマスイベント(商店会主催)

・

2023年4月軒下マルシェ

2023年10月ハロウィンイベント(商店会主催)

2023年12月クリスマスイベント(商店会主催)

・

2024年4月軒下マルシェ

2024年6月軒下マルシェ

以降定期的に開催(偶数月)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2021年4月～

提案メンバーの店舗にて不定期出店の幻のお店

コラボショップ活動開始

コラボショップ(月4回4店舗)
提案メンバーの店舗にて不定期で出展の幻のお店



活用する空き店舗(クッペ)にて軒下マルシェの様子
出展参加8店舗(年2回)

商店会主催、商店街イベントへの参加(年3回)
七夕・ハロウィン・クリスマス
ボランティアとして地域学生と連携する交流イベント



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	『あつまれ！なみき』ワーキンググループ
現在の主な活動 内容・活動実績	1) 『あつまれ！なみき』ワーキンググループ定例会。 2) 住民と企業・大学教授などを含む専門職が金沢区に位置するピアレヨコハマ（商店街）に集まり、それぞれの得意とつながりを活かした産学民連携を通し、新たな地域活動の創出と既存の活動の活性化を目指す。
提案場所	金沢区並木2丁目
提案名 (25字以内)	あつまれ！ なみきの・みんなで・きづくみらい！
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	<p>地域住民がライフステージに特化することなく、自然に集まれる【居場所】を作り、分け隔てない地域の中で支えあえる関係を保つことができる施設についての提案である。金沢区並木地域において、それぞれのライフステージ別の住民が多岐にわたった問題を抱えている。その問題の課題が同じであっても、地域毎に所属組織や活動分野（コミュニティハウス・地区センター・スポーツセンター・ボート小屋・並木ラボ・地域ケアプラザ・産業振興センター・管理組合事務所など）を作り粛々と行っているが、主なる組織や活動が分かれていることにより、地域内で協働した解決の糸口が見つからない。その課題を解決させるためには、誰でも気軽に入りやすい地区の中央である商店街（ピアレヨコハマ）に拠点を置き、先に述べた所属組織や活動分野を超えて交流し、多種多様な人がつながることで新たな活動を行う。その結果、地域住民は【支えあい】、自然に生きがいを感じることができるようになる拠点づくりを目指している。また住民だけでなく、拠点には地域の中で専門分野に優れた人々にも参加を促し、その時々に合わせて支援（個別相談や担い手育成の勉強会、行事企画など）が受けられる関係づくりも行う。そのためには拠点での活動としてフリースペースで活用しやすいカフェを作りキッチンを整備したい。全世代に共通する「食」を通じた交流を大切にしていくなかで、誰でもが参加しやすいように冬には「こたつなどを活用したコミュニティカフェの開催」などを実現したい。</p> <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500 万円</p>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<p>【居場所】 日中は子育て世代や高齢者を中心にフリースペースやコミュニティカフェを設け、活動したい人が自由に活動提案できる、また買い物中の休憩など自由に出入りできる場を設ける。夕方からは、拠点のある商店街の方々や専門家等と協力し、地域のつながりができる集まり（就労中の方向けの集いなど）や地域（子ども）食堂の開催を目指す。これらは整備拠点の活動の中で地域の担い手発掘・育成にもつながると考えられる。広報は、地区内の他の居場所や行政からのお知らせなどを案内できるよう情報ラック等を活用する。地区内ではボート小屋の老朽化やスポーツセンターの改修で活動の変化を余儀なくされている現状があるため、既存のたまり場や住民による日常生活支援の有償ボランティア活動が継続・進化できる場となると良い。</p> <p>【支えあい】 交流を通して、子育て世代や高齢者など問題を一人で抱え込まない関係性を保てるのが理想である。例を挙げると買った物を忘れて帰る方や帰り道が分からなくなる方、同じ方向に帰る人が荷物を持つのが辛そう</p>

	な方、ベビーカーを押しながら走り回る子どものサポートをしている方などへの支えあい活動を行う。このような方々が買い物をしている時、商店街内でサポートすることで報酬がでる買物サポーターや青果の専門店などと協力した栄養イベントなどの活動も検討する。商店街近くに総戸数500超の新築マンションも建設中の為、新旧住民問わず支えあいの輪を広げる。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	金沢シーサイドタウン地区は集合住宅を主とした住宅地と工場地帯あり。人口減少とともに少子高齢化が急速に進む中、担い手不足や、地区内の所属組織や活動分野・活動場所による縦割りが多く、地区内で協働した課題解決を行うことも難しいのが現状である。大規模公園が整備されたり、近いうちに新築マンションで新住民が急増したり、地域を取り巻く環境も変化しているため、人や資源のつながりは今後重要な課題と捉えている。そこで誰もが気軽に入ることのできる商店街に拠点整備を行うことで、住民だけでなく、地域で働く方も巻き込んだつながり・ネットワークづくりを考える。「地域にできないことをやってもらう」ではなく、企業や大学教授から活動開始・継続に関する資金繰りや担い手の創出方法、及び研究成果を基にした活動の仕方などの助言や支援を受けつつ、地区にある資源を活かした「地域ができることを増やす」産学民連携にしたい。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	1) 産学民連携により活動やイベント等も無理なく楽しく続けられ、また新たに始めることもでき、つながりが増える【居場所】がある地域 2) 住民どうしの「それできますよ!」や「あの方お困りかも!」が増え、ちょっとした困りをすぐに解決できる【支えあい】が広がる地域 地域福祉保健計画の目標である『生涯住み続けたい街』を実現する。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	1) 大学教授や病院の理学療法士との連携により整備時のデザインや設計に関するアイデアや一部整備を担う。 2) 企業の販売ブース、大学教授や認定栄養ケア・ステーションなどによる講演会を合わせた栄養の日イベントに合わせ、整備資金・整備案を集める。 3) 『あつまれ! なみき』ワーキンググループとして整備について検討し、今後は行政や区社協などより多くの方に関わって頂く予定である。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	1) 『あつまれ! なみき』に参加して頂いている金沢商業開発（商店街の管理）、金沢シーサイドFM（ラジオ局）、たぬきち商事（お困り解決巡回サービスなど）、大学教授、病院の理学療法士、富岡東地域ケアプラザ等に広報の協力を得る。磯子・金沢区のタウンニュースにも広報の協力を打診する。 2) 金沢商業開発やたぬきち商事などの企業や大学教授等に参加して頂いているため、適宜運営に関する助言や支援が受けられる。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	地区社協、株式会社、大学教授、理学療法士、地域ケアプラザなど専門分野が違う人が集まっていることが特徴。拠点整備・運営を通じて、地区の人・資源のつながりを考えているから、新しい発想が生まれ、「ここに住んで良かった」や「ここに住みたい」という声を増やすことができると考える。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

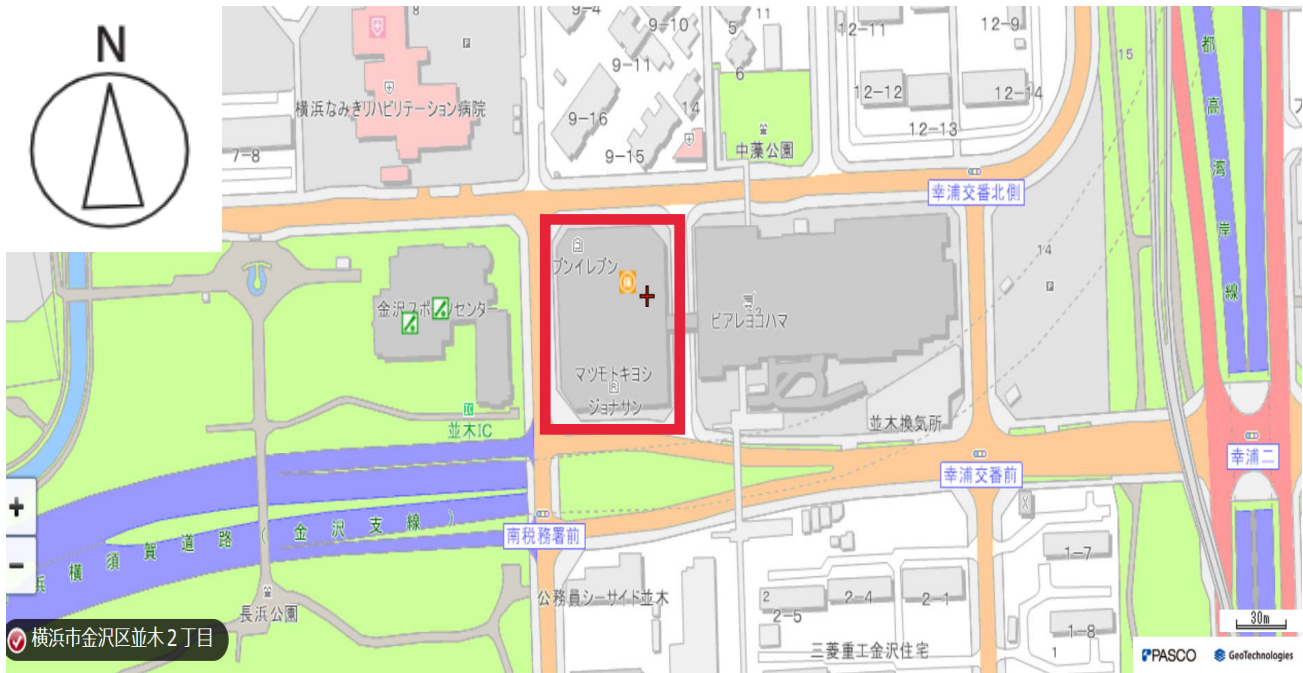
整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
株式会社金沢商業開発 テナントオーナー	ワーキンググループ定例会に参加して頂き、提案内容に賛意頂いた。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図



※整備提案場所は上図の赤丸の部分です。

現況写真 ※整備場所は現在閉店した店舗が撤退作業中です。

入口から正面
(入口左側へ曲がる L 字型の店舗)



入口入って右側



入口入って左側



入口左側奥



左奥



活用イメージ



あつまれ！なみき

今後のイテオシイベント！

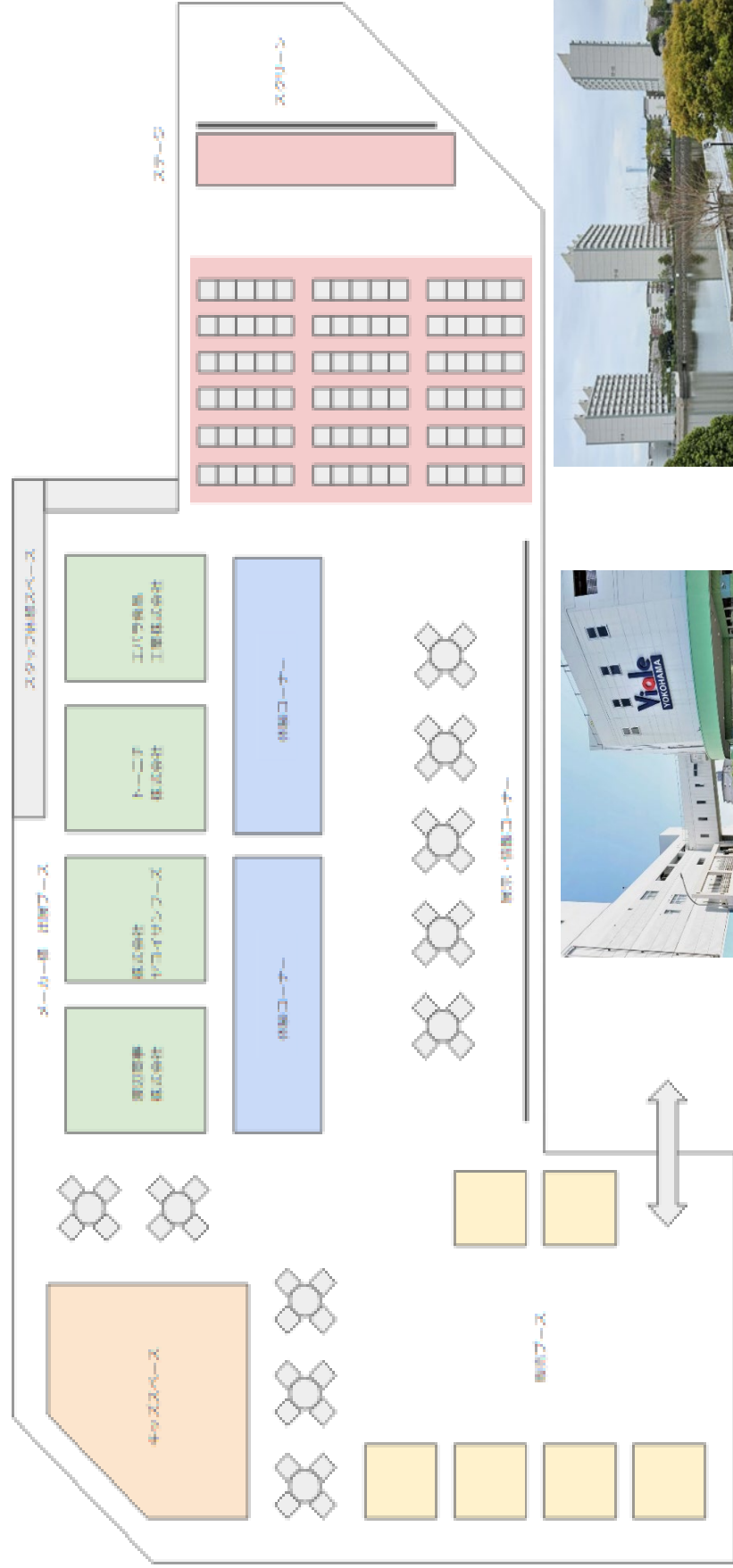
会場レイアウト(案) ピアレ新館B

※8月10日土曜日11時からピアレヨコハマにて

栄養の日イベント企画中！

下図は会場レイアウト（案） 専門家を交えた

地域巻き込み型のイベントをワーキンググループで



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	生麦事件参考館リユースプロジェクト
現在の主な活動 内容・活動実績	(1)「まち普請」応募書類内容検討 生麦事件参考館現地見学 (2)参考館所蔵資料の整理 生麦事件に関する歴史講座開催
提案場所	鶴見区 生麦1丁目
提案名 (25字以内)	歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	私設資料館として愛されてきた「生麦事件参考館」を、地域の人と協力して再開し、歴史と地域の特性を活かしたまちづくりに貢献する施設とする。 (1)1階 資料展示の場を<学びの場>に再生するために必要な整備 ○来館者が資料を見やすく、安全に閲覧できるようにする *雨漏り・段差解消 照明・空調改善 入口扉出入り可能に 入口上部修繕 ○地域の歴史・伝承・昔遊びの紹介、子どもの学習発表の場所を確保する *壁面改修・補強 ピクチャーレール・映像モニター等取付け可能に (2)2階 執務・資料保管場を<交流・集いの場>に再生するのに必要な整備 ○誰もが気軽に立ち寄り、利用できるようにする *安全対策 外部階段（滑り止め）・2階入口（段差解消） *窓・照明・空調改善 ○子ども向けの体験ワークショップに利用できるスペースの確保 (3)駐車場・庭・軒下テラス を<集いの場>に再生するために必要な整備 ○トイレ新設 軒下床（滑り止め）中庭整備 外堀改修（開放的構造に） (4)参考館看板 （拡大・上部移設）・ 入口揭示板新設 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	「生麦事件参考館」ならではの<学び・体験・交流>施設として活用する。 (1)学び 生麦事件を学び、「異文化との接し方」を考える 旧東海道・御菜八ヶ浦・「生見尾村」ー地域の変遷を調べる 学んだことを発表する（紙芝居 かるた 絵画 プレゼン） (2)体験 伝承や昔遊びを通して多世代交流 イベントの企画・準備 (3)交流 事件関係 鹿児島県（物産展）英国（横浜港を訪れる外国人も含む） 東海道関係 川崎宿・神奈川宿等沿線の旧宿場 地域関係 祭礼時休憩所 しゃべり場（開館時何時でも・誰でもOK）
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	地域活動が活発な生麦では、古くから伝わる祭り「蛇も蚊も」の伝統を受け継ぎながら、新たなイベントが企画・実行されている。参考館再開は新たな交流や活動を生み出し、地域の更なる活性化やまちの魅力UPに貢献する。 (1)現在も事件発生日前後を中心に年間を通して多くの団体や個人が事件碑を訪れ、その後参考館に立寄る。「いつ開館？」の声も多数寄せられている。 (2)学校関係者の間で地域の歴史学習へのニーズがあり、参考館再開を求める声が上がっている。 (3)生麦では、事件碑顕彰会の慰霊祭、事件案内板の新設、事件碑の移転管理等事件を風化させない努力が続いている。

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>多様な交流を通して地域の人たちが緩やかにつながり、（年齢・国籍・居住歴に関わらず）支え合う関係ができ、誰もが「生麦に住んで良かった」と思えるような地域を目指す。</p> <p>(1)多文化共生 英国人に限らず生麦を訪れた外国人が地域の生徒・学生・住民と交流（生麦事件・異文化理解etc多様なテーマで意見交換）、最近増えてきた外国籍居住者も気楽に参加するイベントの企画など、異なる文化を背景とする人々との様々な出会いがある地域</p> <p>(2)多世代交流 高齢者や子育て世代が顔を合わせる場、学校外で子どもたちが集まる場、祭礼など年齢に関係なく人が集まる場を整備することで、誰も孤立させず、顔の見える人間関係が広がる地域</p> <p>(3)コミュニケーション サークルや個人が気楽に集い交流するために、生麦や鶴見の「今」と魅力を積極的に発信・共有する地域</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>(1)検討メンバー 自治会、商栄会、企業、生麦事件に関する団体（顕彰会・歴史の会）地域活動団体（生麦盛り上げ隊 見どころガイドの会・文化協会）横浜商科大学、東寺尾地域ケアプラザ</p> <p>(2)広報・情報発信 YOUTV（ケーブルテレビ）、これつる（Webメディア）、横浜信金（店頭以案内図・店内でPR）イラスト・チラシ作成（商栄会）</p> <p>(3)資金・建築関係 商栄会・横浜信金 参考館施工の地元業者の協力</p> <p>(4)地域資源発掘・協力 地域に明るい自治会・商栄会を通じて継続</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>全体の運営・管理は、5年後を見通しながら検討メンバーが担う。</p> <p>(1)運営〈参考館1階〉資料解説（歴史の会・文化協会・見どころガイド）〈 〃 2階〉予約受付・管理、ワークショップ（歴史の会・自治会）（ 〃 中庭）自治会がイベントの企画・運営 横浜商科大生もスタッフとして協力（設営・当日の参加者対応）</p> <p>(2)協力（史跡散策）見どころガイド・商科大生 東宝タクシー（観光タクシー）（物品販売）商栄会（イベント）田祭り保存会・生麦囃子保存会・PTA（広報）YOUTV・これつる・横浜信金</p> <p>(3)連携 横浜商科大学・東寺尾地域ケアプラザ・岸谷小PTA・生麦小PTA</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>(1)「異文化の出会い」が引き起こした生麦事件は、異文化の交流・理解への道を開く事件でもあった。「異文化の衝突」が国内外で問題になる今日、「参考館」再開には更に関心が高まると思われる。</p> <p>(2)旧東海道が通り、かつては川崎宿と神奈川宿の間の「間の宿」として賑わい、近くには曹洞宗大本山總持寺、鶴見花月園公園（東洋一の遊園地跡）、国道駅（JR鶴見線）、文人墨客が集った花香苑、長谷川時雨等が住んだ生麦文士村、浅野学園（浅野總一郎翁創設）がある歴史や文化の宝庫の生麦。「参考館」の再開は、地域の魅力をアップし、歴史と地域の特性を活かした「まちづくり」に大きな貢献をすることになると考えています。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物所有者	生麦事件参考館を地域の皆さんの力で再開し、まち普請事業を活用して建物や所蔵資料をまちづくりに生かしてほしい。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

添付資料2 現況写真



■軒下テラス



床滑り止め

片付けて使える物は再利用

■庭・塀



雑草刈ればかなり広い

*道路と中庭の間に塀がある

中を見やすく開放的に

■参考館2階

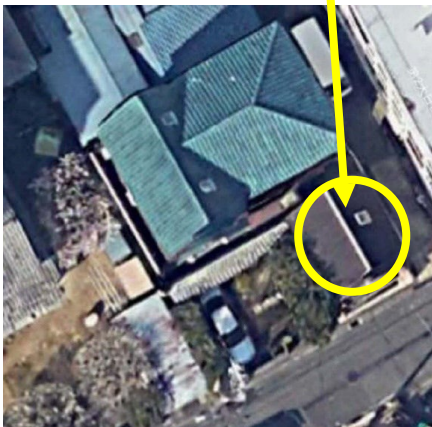


この扉から入るように1階内部を整備

1・2階とも明るさ必要。資料掲示用に天井・側壁改修。窓からの外光が欲しい。

■航空写真

雨漏りチェック



上部劣化、柱は材質的にも上部支えられず危険。



(出典：航空写真のみグーグルマップ2022)

■母屋と参考館



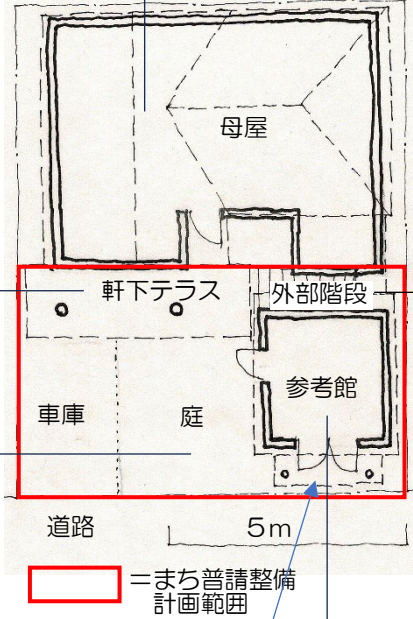
入口上部の劣化進行

■外部階段

入口の段差解消



滑り止め



■参考館1階



■参考館道路前面

掲示板新設



看板新設

この部分バリアフリー化、正面扉復活させ出入りに

母屋 (整備対象外)

1F 学びの場

- * 資料展示 = 余裕をもって閲覧できる配慮 解説員配置
- * 壁面も資料掲示
- * 学習スペース確保

- 2F 交流・集いの場
- * 地域・団体の利用
- * ワークショップ
- * 必要な備品・器材を準備
- * スタッフ会議

軒下・庭 イベントや憩いのスペース トイレの新設

館のイメージに相応しいもの

映像モニター設置

外観は中の楽しい様子が見えるように改修

出入り口は緩やかなスロープ状に バリアフリー化

掲示板新設 (館内・地域情報)



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	「アスレの森」を残す会「あすのこ」
現在の主な活動 内容・活動実績	横浜市立瀬ヶ崎小学校内にある裏山、通称「アスレの森」の整備
提案場所	金沢区六浦東3丁目
提案名 (25字以内)	あつまれ「アスレの森」
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	横浜市立瀬ヶ崎小学校の裏山である「アスレの森」の前に、地域のボランティア、保護者、大学生が交流したり、休み時間（リフレッシュタイム）に児童の遊びを見守ったりするための拠点施設及び入校用の専用扉を作る。具体的には ①広場としてのウッドデッキ ②東屋 ③入校用の専用扉 ④専用扉からの通路 の四点となる。 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	昨今の業務過多による子どもたちとの交流時間が激減している小学校教職員に代わり、「アスレの森」の状況を確認した後、休み時間に「アスレの森」に入る子どもたちを見守る。また、近隣の大学生とも連携し、異年齢の子どもたちが交流できる場を提供。身近な自然に触れながら、教室以外での学びや発見の場を拡げる。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	「アスレの森」は横浜市立瀬ヶ崎小学校内にある、自然豊かな森であり、2009年には環境大臣表彰（自然ふれあい部門にて受賞）を受けるなど、地域資源としても価値と可能性を秘めた場所である。現在「アスレの森」は児童だけで入ることができず、これまで教員の引率によって使用されていたが、昨今の業務過多により、教員は休み時間には、子どもの悩みを聞いたり、学習の準備をしたりと「アスレの森」の引率がしにくくなっている。児童からは、令和元年の学校運営協議会に児童からの「休み時間にいつでも入れるように地域の大人に見守りをしてほしい」という願いが出され、これに応える形で、休み時間の保護者を中心とした大人による見守り「あすのこ」が再開された。「あすのこ」には瀬ヶ崎小学校PTAが参画し、保護者も継続して協働することができる。2007年、アスレチックの完全撤去に伴い、豊かな森を子どもたちに残したいと「あすのこ」（2007年）が当時の保護者有志で発足し活動。地域と協力し「わんぱくランド活用委員会」として横浜市や金沢区と交渉を重ね、2009年「アスレの森」の整備後は、当時の児童が卒業する中で、具体的な活動は無くなり15年が経っている。そこで、当初の保

	<p>護者の思いも大切にしながら、あらためて「あすのこ」が子どもたちの活動を見守るだけでなく、「アスレの森」をさらに過ごしやすい場所にしたり、多くの異年齢集団が快適な時間が過ごせたりするような場所にしたい。</p>
<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>自然とふれあうイベントや時間、場を通して、たくさんの異年齢の子ども達が交流できる場所にする。休み時間以外にも、教室に入れない子どもたちが地域の大人と一緒に過ごしたり、森で心穏やかに過ごしたりする中で多様な価値観や創造性を膨らませ、大人も子どもも豊かな学びの場となってほしい。近隣にある地域拠点「もりのお茶の間」の協力を仰ぎ、「アスレの森」のカフェタイムなどを企画。お弁当や軽食などを一緒に楽しむなど、多世代での交流にもつなげていきたい。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>令和5年10月7日には、「アスレの森」の整備として、「あすのこ」のメンバーだけでなく、96名の近隣住民の協力があつた。瀬ヶ崎小学校はせがさきタイム（総合的な学習の時間）において「アスレの森」をフィールドに学習しており、卒業生も活動に積極的に関わっている。（10/7の整備にも多数の卒業生がいた）また瀬ヶ崎小学校は今年度が70周年ということもあり、児童・職員・地域が一緒になって活動できる時間も確保されている。関東学院大学中津秀之准教授の研究室では、2015年から継続した「アスレの森」でのワークショップを開催しており、新拠点の意匠等、建築に関して協働する。</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください</p>	<p>月に1度行われる野外活動クラブの活動に合わせ、地域全体から人が集まれるような活動を企画し、六浦東連合・柳町町内会に呼びかけ、定期的な活動を行いながら地域全体に活動の輪を拡げていきたい。また、この地域への呼びかけを通じ、「あすのこ」のメンバーに常に新たな人が増えていくようにしたい。瀬ヶ崎小学校ではキャリア教育として「地域企業と協働したモノづくり」を行っており、これまでも地域と協働した商品を作ってきた。こうした商品はコミュニティカフェ「もりのお茶の間」で販売を委託し、「アスレの森」の修繕費に充ててきた。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>2015年度の「まち普請」で助成して頂いた地域拠点『もりのお茶の間』。そこで育んだ地域の力。そのネットワークをさらに拡げ、未来の地域を担う子どもたちのために「アスレの森」に集い、誰もが笑顔になるような場を作りたい！</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
瀬ヶ崎小学校	説明を行い、共に提案グループとして協力を得た。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

位置図

「アスレの森」は横浜市立瀬ヶ崎小学校の体育館裏にある、自然の中で生物観察や遊びができる場所です。1983年5月にわんぱくランドという場所として完成後、2005年アスレチック下地盤改修工事を経て、2008年12月「アスレの森」としてオープンしました。（翌2009年に環境大臣表彰「自然ふれあい部門」を受賞）



(出典：Google Maps)





現状写真



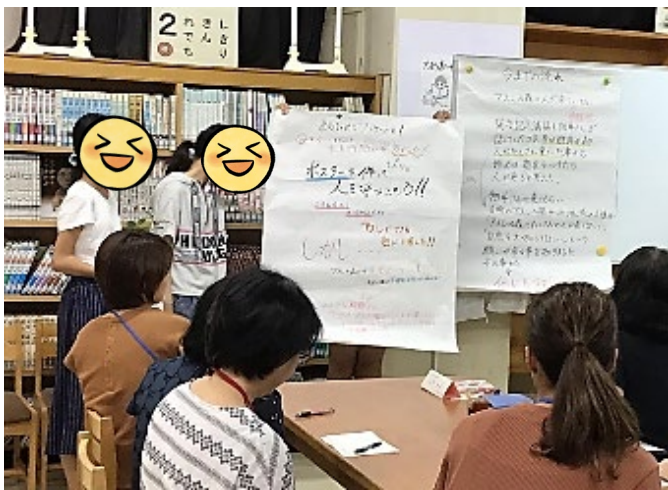
その他資料



地域の方と共に手入れ・整備をしています。
(今年度も10月に実施予定)



アスレの森は子どもたちの自然観察や遊び場。
瀬ヶ崎小だけでなく、地域の幼稚園・保育園も利用。



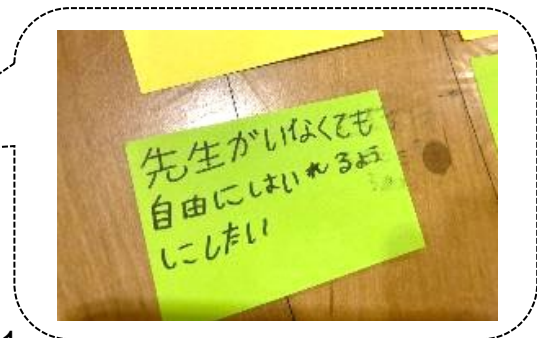
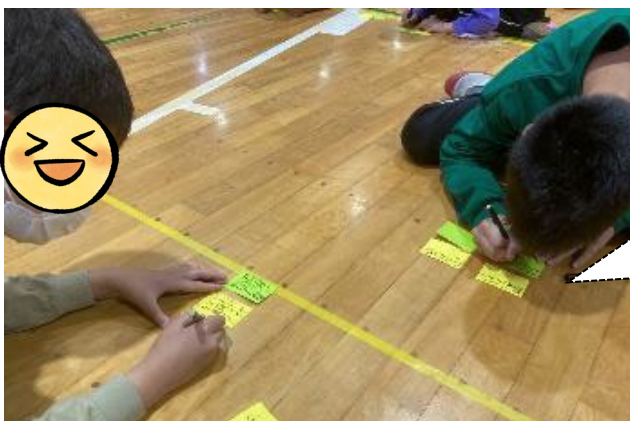
令和元年、当時の6年生たちはアスレの森をフィールドにせがさきタイム（総合的な学習の時間）を行っていました。当時、アスレに入る子どもたちが減ってきたことを課題として、全校児童に「どうすればアスレの森にもっとたくさん子どもたちが行けるか」というアンケートを取り、多かった回答のうち「リフレッシュや昼休みにアスレに自由に行けるようにしたい」という意見をまとめ、その年度の拡大学校運営委員会に出席し、休み時間への人員の配置をお願いしたところ、快く引き受けてくださり会は終了しました。

「いよいよ森に入れる！」と子どもたちは喜んでいましたが、この年（令和元年）の9月、大型の台風15号の影響で、倒木や、地滑りが起きてしまい、立ち入りが禁止されてしまいました。

令和3年までに危険な倒木の除去、伐採を行い、児童がアスレに入るため最低限の安全は確保されました。再び、子どもたちの活動を中心に、使い方を話し合い、休み時間のみあすのこの見守りがスタートしました。



令和元年9月台風後



メールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを読みませんか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ 人・まち
メルマガ案内

地域まちづくり課 “公認” のFacebook

「ヨコハマ市民まち普請ひろば」



まち普請ひろば

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

自ら主体となって、身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎29階)

電話 045-671-2679 E-mail : tb-seibiteian@city.yokohama.jp



令和6年度ヨコハマ市民まち普請事業 応援企業のみなさま



まち普請事業は、市民主体のまちづくりの支援を通じてSDGsの目標達成を目指す事業です。SDGs推進に精力的に取り組む以下の企業の皆様からの応援をいただいています。

